

地方における地域環境研究について

加藤 哲 男

かとう てつお

昭 25. 7. 18

福井県土木部 技師

土木工学

「地方の時代」という言葉がもてはやされ、マスコミでも頻繁に使われていたが、最近やや鎮静化してきたように思われる。しかし、このことは「地方の時代」の終焉を意味するのではなく、むしろ定着しつつある状況を反映しているように思われる。本文は、地方における環境問題に関して、主として工学的立場から取り組んでいる実態を紹介し、長期的展望への道しるべとしたい。

環境問題が脚光を浴びた昭和 40 年代は、同時に環境研究の芽を地方に植え付けた時代でもあった。全国的に広がった学園紛争は、地方大学の地方でのあり方を問い、地方を離れて地方を見つめた学生の多くは、地方のよさを発見し、それを守り育てるためにふたたび地方での生活を選択することとなった。こうした社会背景は、地方での環境問題に主体的に取り組もうとする若手研究者や技術者を誕生させる要因となり、そのグループ化には地方大学が核としての役割りを担った。

昭和 54 年 11 月、福井県職員会館には 20 名余りの研究者や技術者が、福井地域環境研究会（略称 REF）の設立会合に集まっていた。設立発起人には福井大学工学部本多助教授や筆者の名前が連なっており、設立案内書には次のような設立趣旨が記載されていた。

「このたび福井地域環境研究会（仮称）を設立することになりました。来るべき“地域の時代”に備え、地域の問題は地域で解決するという目的のもとに、地域の哲学を確立するためには、技術的にも理論的にも水準の向上が必要です。（後略）」

このよびかけに応じて集まった人びとは、大学関係、県関係、民間人と多様であった。その後、高校教諭や福井高専、福井医科大学の研究者も加わり、現在約 40 名の会員が、交通、水、住み方、緑、土地利用の五つの分科会に分かれて研究活動を続けている。その研究成果は、投稿や研究発表（加藤・中田、1983）といった形で公表するほか、毎年 REF 報告書を印刷し、県内の図書館や官公庁、研究機関に送付している。また、理論水準の向上を図るために、文献の輪読も行っており、これまでに「システム分析」、「情報理論の基礎」、「環境経済学」などを学習し、現在「風景学入門」に取り組んでいる。

ところで“地方の問題は地方で”という姿勢は、ややもすると“井の中の蛙”になる危険があるが、これに対

処すべく、他県での同様な研究グループ^{*1)}との交流を行い、共通課題や地域固有の問題の討議を行っている。また、海外の実状についても積極的に情報を集めるなど^{*2)}、地方に活動の拠点をもちながらも、国内外との交流に留意している。なお、福井県地方の気象条件を反映して、「福井雪害対策研究会」も設立されており、豪雪予測やシンポジウムの開催など、地域での着実な活動が続けられている。

地方におけるグループ研究の事例として福井県の実状を紹介してきたが、こうした活動はまだ始まったばかりであり、今後の活動に期するところが大きい。ところで、環境問題は地理的気象的要因の占める割合が大きく、それだけ地域固有の課題として解決を迫られる問題も多いことから、地域をよく熟知した人間によって検討されることが望ましい。また、環境行政の点からみれば、環境問題とは観測値を取り扱うだけでなく、良好な居住環境を積極的に創造することを意味しており、地域計画における環境の取り扱いが重要なものとなってきている。一方、住民の立場からすれば、環境を守るにしろ創造するにしろ、金銭的負担を公共団体に依存せざるをえない現状では、要求を集約したり、調整したりするうえで、ある程度の理論づけが必要となってきている。このような需要は今後さらに高まることが予想され、地域に密着した研究グループの役割りもますます大きなものとなる。

福井県では“文化のふる里創り”をキャッチフレーズに、博物館建設や史跡整備が進められているが、地域に根を下ろし、地域の問題に地道に取り組むことも“文化”ではなかろうかと考えている。そして、この文化活動こそが“健康的でうるおいのある”環境保全が配慮されたふる里を創る礎なのだと、ひそかに自負している。

参考文献

- REF・本田義明・今野修平（1982）越美北線の利用実態と沿線開発による利用促進。鉄道ジャーナル'82. 10, 71～77。
加藤哲男・中田景文（1983）地方都市における河川と水害に関する住民意識の考察。第 5 回土木計画学研究発表会 講演集, 85～90。

*1) 山梨地域計画研究会、秋田地域問題研究会など。

*2) たとえば 81.1 のフィリピン都市調査団、会長の訪欧視察報告会、顧問（副知事）の訪ソ青年の船報告会など。

地方の時代は自分たちの手で」と県内にも、多数の「まちづくり、村づくりグループ」が活動を続けている。越前和紙や越前打刀物といった伝統産業を守り育てている小集団。地域の歴史の発掘や自然を保護しようという有志の集まり。それやれが、新しい時代の息吹を地域に吹き込むと、懸命の努力が続いている。県内の主なまちづくりグループを紹介する。

「利明」電話（0778）511-1978。〈内容〉県内七つの各青年会議所が、独自のまくり活動を推進。さらにそを部団体である同ブロッククラブス感覚と地球規模地域に根差した活動を準備。「上兵庫を考える会」坂上兵庫「本宅田」代表者三郎「電話（0776）71627」。〈内容〉兼業農激増、農業離れの問題を解するため、生活改善や集約農推進に取り組む。

【清水町振興研究会】清水山、代表者・荻野久信「電話（0776）98148」。〈内容〉民間だけでは対応できない、民間による企

愛する
・村上
23-1
清比
環境庁長
清掃亭
大野
代表者
(79)
谷ノ水
名水
問題を通
つくりの
井ブロッ
千目鱈
動などを展開

推進に取り組み。
【清水町振興研究会】清水町、代表者・荻野久信、清水山、代表者・大野、農業だけでなく、民間だけでなく、町の将来設計を、町長に提言していく。
【氣比史学会】敦賀市津直三、電話(0770)36332、内容「氣比の松原などの史跡や古墳と「郷土の宝物」を学び、

松善産求追
 上兵庫「本宅町」代表者・
 三郎電話「0776-716627」
 敬啓、農業離れの苦悶を解

だより

NO. 1
1988. 4. 1

21世紀「都市と農村」研究会●岐阜



地域問題を考える

会長 小島宏之（未来博常務理事）

地域問題とはいったい何なのでしょう。もちろん、地域問題について厳密な定義があるわけではありません。一般論として、特定の地域に関する問題であるということはできますが、あまり地域の特殊性に固執しても問題が小さくなってしまいう心配もあります。やはり、地域問題は特定の地域の問題でありながら広く一般性をもった展開をする必要がありそうです。

卑近な例ですが、自分が毎朝夕、通勤している道路の信号機が少しおかしいのではないかとといった素朴な疑問から出発して広く道路交通全般の問題に行き着き、最終的にはその信号機に戻って来るような展開をするのが典型的なスタイルではないでしょうか。

もっとも、このようなおあつらえ向きのスタイルで地域問題がころがっているとは限りませんから、むしろ、地域に関する具体的な問題をとりあげて柔軟な発想から研究提言することが何よりも大切なことでしょう。

わたしたちは、現在の地域問題が都市と農村という形で主要な矛盾をあらわしており、これをひとつの問題として捉える視点が必要であると考えました。もちろん、これについても、広く柔軟に考えればいいでしょう。過密と過疎による地域格差、核家族化の進展と高齢化社会、交通問題、アメニティなど大きな問題が山積しています。これらの問題に対して具体的で建設的な提案が、今求められていると思うのです。

わたしたちも地域社会の中にあって、たとえ小さな力であっても地域社会に貢献しようという心構えが大切だと思います。わたしたちにとって地域とは岐阜県という地域に他なりません。岐阜県について、あれこれと考えることは、とりもなおさず現在自分自身が暮らしている地域に愛着をもって接するということだと思うのです。



岐阜の街並み

管財課 石川咲子

名鉄新岐阜駅から電車通りに沿って北へ進み、伊奈波神社の電停を過ぎると、矢島町、本町三丁目、本町一丁目、東材木町、大宮町と道は階段状に折れ曲って進み長良橋に至ります。

この辺りは、戦災にあわなかったため古い区画割のままの古い家がまだ残っています。敷地は、ほとんどが「うなぎの寝床式」の間口が狭く奥行きが深い狭い敷地で、建物は戦後40年余もたったため、かなりの家は建て直されて、古い町家と新しい家とが屋根をくっつけるようにして混在しています。

それでも久屋町から西材木町、玉井町から湊町のあたりには格子の古い町家や倉が並んで独特のなつかしい雰囲気を持った街並みとなっています。

このような街並みは、岐阜市内でも今は一部となってしまったので、是非大切に残し、新しく建て直される建物は、その雰囲気になじんだものになれば良いのと思います。

そしてこの辺りには昔の城下町を表わすような古い町名が多く残っています。米屋町、白木町、竹屋町、本町、木造（きつくり）町、松屋町、大仏町、蜂屋町、布屋（ぬのや）町、大工町、魚屋町、大桑町、材木町、茶屋町、木挽町、大宮町、湊町、等、...

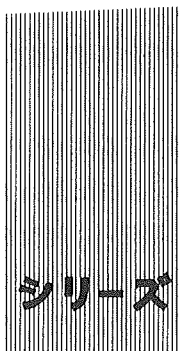
全国の城下町には、同様な町名が残っているでしょうから、そんなに珍しいことではないでしょうが、これらの町名も町家造りの街並みと相互作用で雰囲気づくりに作用しています。

また、岐阜公園から大仏殿、伊奈波神社、東別院に至る山裾から、岐阜総合庁舎北側一帯には、大小の神社、仏閣がたくさん点在しています。私が子供の頃通った東別院の幼稚園は、毎日朝夕、保育さんが道すがら道に出て待っている子供を拾いながら列になって歩いて通ったものですが、今では、徒歩の組と幼稚園バスで送迎の組とに分かれたそうです。通園していたその細い道は、今は一方通行になって車が我物顔で走っています。排気ガスの中を園

岐阜市内で、古い街並みや金華山、岐阜公園、長良川を楽しんで、山裾沿いに神社をめぐり、そして柳ヶ瀬の繁華街に至るゆったりとした散策コースがあっても良いではないでしょうか。ただ、これらの地域も住んでいる人々の生活があり、人々が快適に暮らせて、その上で魅力ある雰囲気を持ち続けるには、考えなければいけない問題がたくさんあるように思います。

— 各務原市 —

新旧の混在した「新しいふるさとづくり」をするためにも、これから「しきたり」を勉強していきたいと思う。

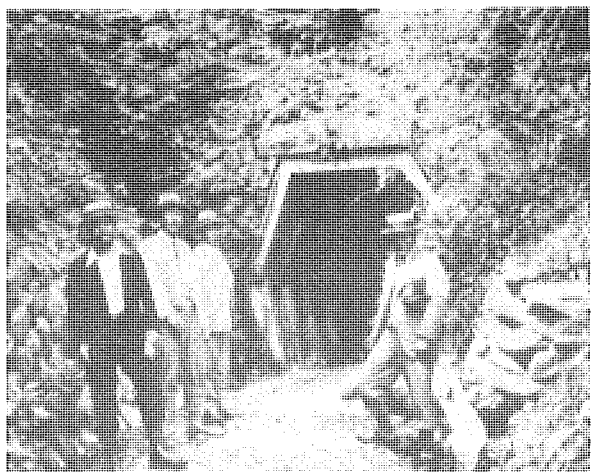


峠考現学 ①

＝油坂峠＝



土木部 丹原光隆



昭和62年11月、岐阜県と福井県の県境油坂峠に新しいトンネルが開通した。一般国道158号のバイパスで、油坂道路第1トンネルといい、全国初の高規格幹線道の供用開始であった。工事は続いて第2工区にかかり、3つのトンネルで結ばれる予定である。

越前街道の油坂峠は、油汗が流れるほどの難所ともいわれているが、国境の要衝で通行人が非常に多いため油を塗ったようによくにっただけで名付けら

れたといわれる。このことは油坂の交通量の多さと難所ぶりを示したもののだが、往時は箱根の峠と険しさを競ったといわれている。

この街道にも「口留番所」という関所が設けられ、通行人や荷物の出入を取締り、役銭などを徴収していたようだが、越前との戦いの歴史や難所ぶりを示した逸話や物語が数多く残っている。

明治に入り「上保筋道路組合」が出来て、この街道が改修されていく端緒となった。明治22年、油坂の中腹に最初のトンネルができたが、人がやっと通れる位のものであった。このトンネルについて「郡上のおんな」（古川のぶ著）は、うまく描写している。

*

「去年までは、この上の高い所に旧道があつてのう、そこを通つたが今年になって隧道ができたので楽になったわの」と、いいながら、貫通してまもないという暗いトンネルの中へはいっていく。長さは八十間（150m）もあるだろうか。男が荷物を担いでやっと通れるくらいの広さで、天井から冷たい水滴がぽとぽと落ちていた。とり（注一女主人公）

は男に会わなかったら怖気づいて引返していたかもしれないと思った。トンネルを抜けると右手に高い山が肩まで迫り、左は千仞の谷底であった。．．．．．

※

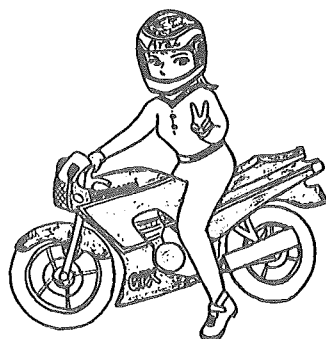
明治35年、県道に編入され、白川街道とともに道幅3mに改良されていったが、トンネルの拡幅は、大正末まで待たなければならなかった。

昭和40年代ごろ、岐阜国体、スキー場や九頭竜ダムなどを契機に、国道156号線などと相まってトンネル以外の改良舗装工事がされ、ついで高度成長が自動車交通を喚起したことから、油坂峠を自動車専用道路として見直し、現在の油坂トンネルへつながったのである。

福井県和泉村は、将来再び岐阜県境の要衝として年間230万人もの観光客が通過することを夢見ている。

頑張れ！岐阜市

岐阜大学院生 松村みち子



「地方の時代」と言われだして久しい。確かに魅力ある地方都市も多くなった。例えば、仙台市。「杜の都」と呼ばれていることは知っていたが、青葉通り、定禅寺通りの巨大なけやき並木を初めて見た時の衝撃は忘れられない。木漏れ陽の中に彫刻がある風景、淡いセピア色の駅舎、いや、何よりも街にあふれる緑・緑・緑・．

地方都市の落ち着いたと、駅前のペディストリアンデッキに見られる大胆な都市空間創出の不思議な共存。こんな都市をつくり上げた仙台市民はすごい！

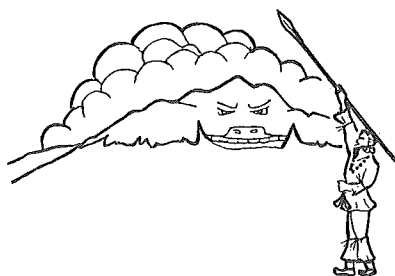
あの独自性はどこから生まれたのだろう。「都市の個性」とひとくちに言うけれど、あそこまでつくり上げるには、試行錯誤も失敗もいくつかあったに違いない。それでも、官民一体の熱意があったからこそ今日の仙台市がある、というのだけは間違いなさそうだ。

岐阜市を魅力ある街にしたい。縁があってここに住んでいるのだから。自分に何が出来るのかわからないけれど、皆で力を合わせれば、いつかは形あるものになるだろう。

さり気なく、応援しよう。「頑張れ！岐阜市」

「伊吹山の白猪」

土地開発公社 清水正武



古事記によれば倭建命（ヤマトタケルノミコト）は父帝の命を受けて東国征伐に出かけ、その帰路、尾張国に入り美夜受比売（ミヤズヒメ）と結婚し、その足で伊服岐（イブキ）の山の神を平定しに出かける。その時、どういうわけか、倭建命は神剣「草薙剣」（クサナギノツルギ）を不要と考えて比売（ヒメ）のもとに置いて出かけてしまう。伊服岐へ着くと山の辺りで牛のように大きな白猪に出会うが倭建命は、これを山の神の使いと勘違いして侮ったため、大氷雨に遭遇して退敗する。ただの使いと思った白猪が実は山の神その人であったので、その怒りにふれたのである。倭建命は命からがら麓へ下りて玉倉部の清泉で休んだところ、やっと正気にかえたので、そこを居窟（イサメ）の清泉と名付けたという。（これは現在の米原町醒ヶ井とも関ヶ原町玉ともいう。）倭建命は伊服岐での不覚がもとで、まもなく一命を落とすことになる。

これらの記述は史実とどこまで符合するのか確かめる術はないが、少なくとも大和朝廷の全国制覇の過程で伊吹山を中心に強力な豪族が存在し、朝廷がその平定に手古摺ったことを暗示しており、白猪はその象徴のように思われる。伊吹山の白猪は出雲国の大国主命（オオクニヌシノミコト）と同様の存在と考えていいのではないだろうか。古事記は大和朝廷が、その後、伊吹山の白猪とどのように和解、あるいは征服したか述べていない。しかし、白猪が伊吹山のシンボルであり、その麓に居窟の清泉があったと考えてよい。そう思ってみれば、遠く雪をいただく伊吹山は巨大な白猪のように神秘的にみえるではないか。

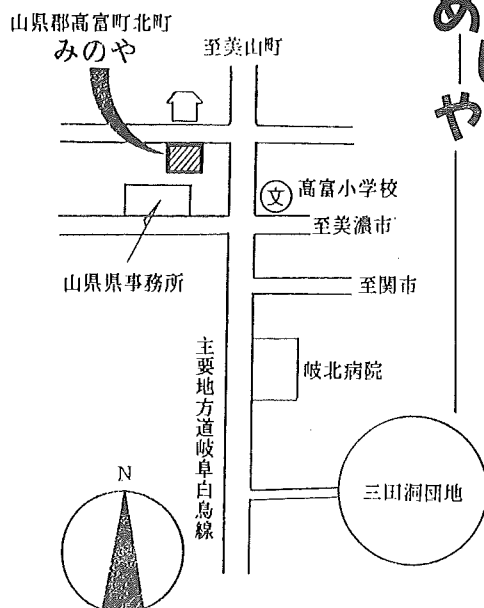
そこで提案であるが、古代史の英雄倭建命と伊吹山の神「白猪」、また倭建命を蘇生させた「玉の清泉」を大々的に売り出してみてはいかがであろうか。たとえば、次のようなものが考えられる。

- ①倭建命と白猪の出会いを描く彫刻（ブロンズ、石像など）を制作して伊吹山の麓の公園などに置き観光名所とする。
- ②伊吹山のシンボルとして白猪のデザインを公募し、ペナント、マスコット、キー・ホルダーなど土産物に使う。また、木彫や陶器で魔よけの置物などとすれば県産品で最高のものができるはずである。
- ③ウィスキー「YAMATO TAKERU」、焼酎「居窟」、吟醸酒「白猪」の製造・販売を行なう。

近所の味自慢

八幡土木事務所

郷 明夫



世の中に味自慢の店は数多いが、味・値段・ボリュームと三拍子揃ったのが、ここに紹介する「みのや」である。特に、文字どおり身体を使う労働者にとっては、五百円前後出せば、十分に空腹を満足させられることから、平日の昼飯時など店内はお客

で満盃の状況である。この店は、いわゆる大衆食堂であり、かつ井、天井、玉子井といった井ものと、カレーライス、中華そば、焼そばなどが主なメニューとなっている。

店内は二十名も入れば満員となるほどの大きさしかなく、しゃれた雰囲気や装いでもない。しかし、この店に初めて入った客がメニューを注文してびっくりするのが、そのボリュームである。たとえば、私が好きなもののひとつであり、皆さんにお薦めする「かつ井」を例にとれば、蓋をあけるや、まさにこぼれんばかりに、御飯のうえに玉子と「かつ」がもり上がったように盛られているのである。ここで、客は、はたどこな沢山の量を食べられるか、あるいは注文を間違って大盛を頼んだのかと戸惑うのである。

しかし、ともかく、全部食べられなければ残せばよいと箸を進めると、これがうまいので思わず、もう少し食べられるなと思いつつ、ほとんどの人が全部平らげてしまうのである。先日ゲートボールの帰りであろうと思われる老婦人が「かつ井」を注文し、「こうも食べれんわ。」と言いつつ、結局は、ぺろっと平らげてしまったのであった。

このボリュームたっぷりな、皿にこぼれんばかりに盛られた「焼そば」、丼鉢の中にそばがぎっしりつまり、汁がこぼれそうな「中華そば」など全てのメニューに共通である。ぜひ一度、御賞味あれ！



未来博のみどころ

スカイマックス未来館（テーマ館）

主催者出展のパビリオン。ひときわ目立つ白銀の円型大ドーム。高さ28m、直径80mで、内部に柱は1本もない。まずこの偉容に入場者は息をのむだろう。ここで東宝・松本正志監督メガホンの「わが大地」が上映される。縦17m、横23m、5階建てビルに相当する超大型スクリーンに岐阜県の実景や観光、文化、産業が紹介される。そのほとんどが空撮のため見る人は鳥になったよう。上映時間は約18分。

このほか場内にはファンタジックホール、コミュニケーションホール、クラフトホールが設けられ、岐阜県の優れた技を結集したいろいろな展示物などが花を添える。感動と驚きが絶えぬテーマ館だ。

事務局通信

〇研究会の会報第1号をおとどけします。当面、季刊紙として発行する予定です。内容としては、地域に密着した話題や提案を中心に、小さいながらもピリッとした味のあるミニコミ紙にできたらいいと考えています。

〇地域問題は、個別にみれば卑小なものかもしれませんが、豊かな地域社会を築くためには、それを根気よく解決しようという姿勢が不可欠です。当研究会は、現在会員数43名で、地域に密着した具体的で建設的な提案をしていきたいと考えています。どんな資格も必要ありません。志ある方の積極的な参加を期待しています。

編集発行人 21世紀「都市と農村」研究会事務局 0582-72-1111(2597)

「CVだより」編集部 清水正武 佐光重広 白木幸太郎

しずおか かわ

を考える会

ニュース

創刊号

1986年1月22日

発行

静岡地方環境文化研究会

〈目次〉

- ・ガルフ紹介
「ふるさと清水を考える」 P2
- ・水ガレージ
取材レポート 小石川 P3
- ・焼津市
「映画の中の川」 P4
- ・「静岡県の河川を
考える会」だより P5
- ・サアトニオの
ハセオデルリオ P6-7
- ・「川のエコロジー」 P8
- ・生物で知る川のようす
(瀬枝市のバク) P9
- ・イベント情報 P10

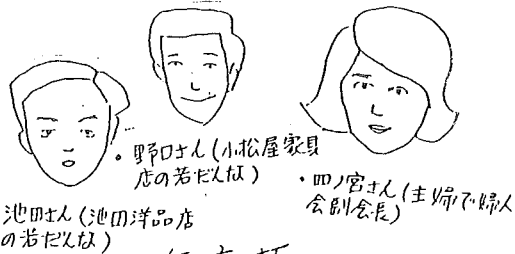
(写真:高塚 久)



グループ紹介 第1回 『ふるさと清水を考える』まちづくり講座 (自主研究会) 『水グループ』

拝啓 カウ君へ

永らくごめさしてありますかいかがお
過ごしてでしょうか。君は最近、みなから
のけ者にされているようですが、くけずかえ
おているようです。この頃君について考
えることがあります。それは、君がしんが顔を
持っているとは、清い水の流れは、心に
安らぎを、水面に写る夕焼けは、明
日への希望を、川岸の草花は、四季の
移り変わりを、そして雨の日には、水の
恐しさを教えてくれます。そんな移
り気なカウ君の心をとらえるには、
もっと君の心を知らないといけな
いのです。今後共、嫌わず付き合
ってください。



・野口さん(小松屋家具店
の若さん)

・池田さん(池田洋品店
の若さん)

・四ノ宮さん(主婦で婦人
会副会長)

伝言板

私は、今年の6月より「まちづくり運
動の一環として、市民10名と清水
市内を流れる巴川について研究す
るグループを作って活動しておりま
す。その成果をまとめて、1月29日
(午前中予定)に清水市役所において、
発表会を開くことになりました。
興味のある人は、万障繰り合わせ
の上、見学に来てください。(スライ
ド映写もあります。)

(くわしくはイベント情報欄10ページをどうぞ)

君の笑顔より



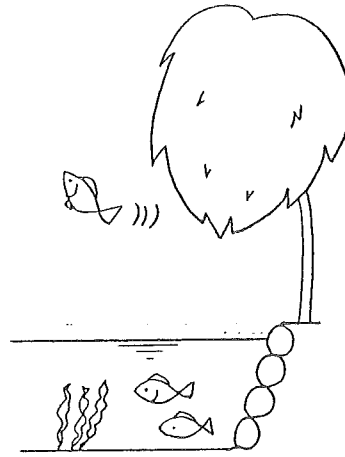
・小林さん(清水市社
会教育課係長)

・望月さん(住まいづくり
研究所所長)

・宮城島さん(商工会議
所の職員)

巴川雑感(その1)

巴川には、『暴れ川』という先入感があります。それは、
七夕豪雨やひんぱんに起こる水害の恐しさ。被害
の印象が強いから、巴川にもすばらしい景観や自然
環境があったはずなのに、いつの間にか忘れられ、
怖さと汚さは巴川のイメージを作っていました。
ぶかし行はわれた川辺で、語りや水とのふれあいは
何処へ行ってしまったのでしょうか。
私は、その原因を、もう一度改めて考えてみたいと思
っています。そして、多くの市民と共に忘れられた
情緒のある河川空間を復活させたいと思います。
巴川の調査を行なう機会を得て、巴川と半年間、身近に
接してきて感じたことがあります。それは、まだまだ
巴川が『死の川』になっていないということです。
新清水駅に近い柳橋付近は、すばらしい景観を今でも
残して私達に感動をおたえてくれます。みなさんも1
度、身近な河川の冒険を試みてください。もしがする
と思いがけない発見があるかもしれませんよ。



みなさん、いよいよはじまりです。



本枝 潔(記)



(2) ・萩原さん(総合設計事
務所の所員)

このコーナーに、数多くのグループに
ご登場いただきたいと思っています。是非ご連絡下さい。

グループの交流会が出来るように
なると、すばらしいと思います。

取材レポート 1 かいめ

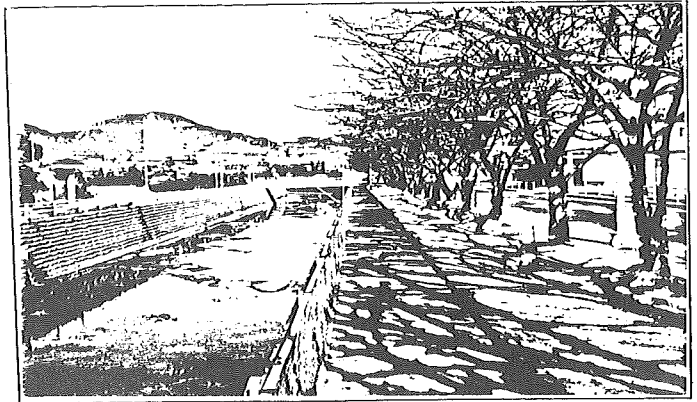
〜 焼津市・小石川



市川

県庁前の交差点で、よくお堀の中をのぞき込んでいる子供がいます。お堀に浮んでいる水鳥や魚を見ているのですが、お母さんも信号を2-3回やり過ごし、子供につき合っています。ほほえましい光景です。

そんな場所を自分達の街にもつくろうと川に鯉を放している人達の話き聞きました。



焼津の小石川という川に、昭和49年、増田一郎さんという方が、鯉の稚魚を放流したことから、賛同者により「小石川 鯉とさくらを守る会」という会が結成され、以来様々な活動を行っているそうです。昨年の暮れに増田さんをお訪ねしたのですが、あいにくお会いできなかったので、今回は小石川を歩いてみての感想などを報告します。

小石川は中10m余りの小さな川です。護岸は自然石が積まれ、兩岸に道があり、橋が沢山かかっている、それだけでもなかなか風情のある川です。まず目についたのが、フラワーポットと「鯉を育てみんなで川をきれいにしよう」という看板。川の兩岸には、桜その他の木が植えられています。鯉を探したのですが見当りません。訴板倒れかな?などと考え、川をのぞき込みながら上流へのぼってゆくと、いました! 堰でせき止められた水の中に、うようよとバカでかい鯉が、まるで金魚あぐい金魚の様にいます。その大きさと数には驚かされました。そのもう少し上流からは、桜並木と遊歩道が続いており、車を気にせずのんびり散歩が出来ます。途中、あひるやガモの姿もありました。また、おもしろいと思ったのは、川の中央を矢板で止めて掘り込み、鯉がうやうや泳げる場をつくらせたこと。それから、先程出てきた堰ですが、それが単なる板の様な堰ではなく、Sの字の様な形をしており、川に公園の様なデザインが施されているという事を、とてもうれし

く思いました。

以上、小石川を歩いてみて、いろんな工夫がしてあるのを見つけました。それらは、まだ改良の余地はあるかもしれませんが、とにかく、この川を取り巻く環境を良くしようと努力している人達がいて、そして、その努力が成果をあげているということを感じさせられました。

(3)

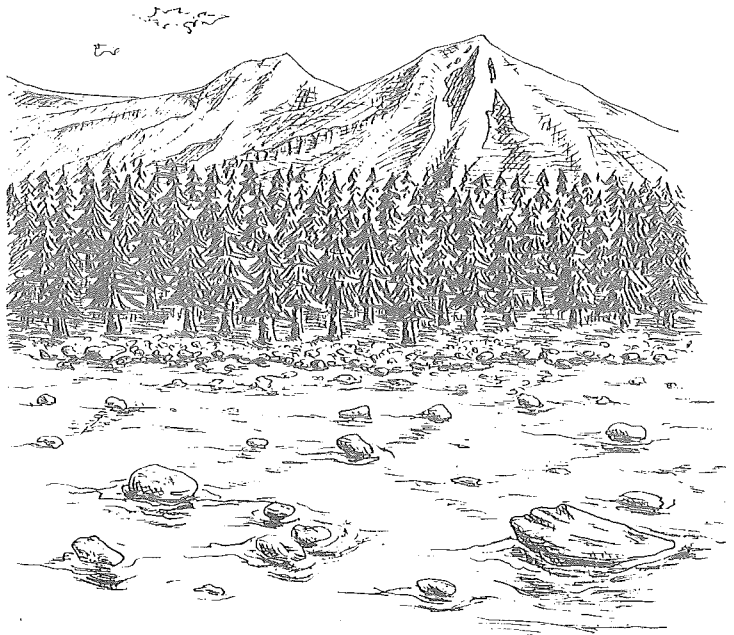


映画の中の川

原 隆 一

映画の中の川といって思い出すものに、三つの映画がある。一つは、ロバート・ミッチャムとマリリン・モンロー共演の「帰らざる河」、それからフランス映画の「巴里の空の下セーヌは流れる」、そして最後にローレンス・オリビエと子役の男女による「リトルロマンス」。「帰らざる河」は、父と子の愛、そしてその父親と酒場の女の愛を軸に描かれたウエスタンで、悪人から逃れてコロラド河を筏で下るときの状況を物語りにしたもの。モンローはこの映画のなかで、有名な「the river of no return」を歌っている。この映画の中で河川は、大きな舞台として特徴的に使われていたと思う。おそらく、山を馬車で下るような設定にしても、同様な主旨の映画はできたかもしれない。しかし、河川を用いたことで、自然の持つ激しさ、荒々しさとそれが持つ美しく、かつロマンチックな面を十分にスクリーンの中に表すことができたように思う。「巴里の空の下セーヌは流れる」で描かれているセーヌはまさに生活のなかの川である。この映画自体が何人かの巴里の生活者の一日を並列的に描いて、大都会の悲しさ、恐ろしさを追求したものと言えるが、そのなかにあってセーヌ川は人間たちの悲喜劇を何も知らぬかのように静かに流れている。セーヌ川は映画の最初と最後に

巴里の早朝と夕暮れを代表する都市景観として登場する。それから少女が学校でもらった成績表を家に持って帰れず、セーヌ川にボートを浮かべたりしてぐずぐずしているシーンがあったが、こんなところにも巴里っ子がいかにかセーヌに親しみを感じているかわかる。「リトルロマンス」にでてくるのは河川といっても運河である。場所はベニス。愛し合っている少年と少女がローレンスオリビエ扮する老人からベニスに纏わる伝説を聞かされる。それは、恋人同士が夕暮れに、ゴンドラに乗って、運河に架かる「ため息橋」という橋の下でキスをすると生涯離れることがないというもの。二人はそれを実行しようと旅にでる。しかし、その老人が詐欺師であることがわかり、あの伝説も作り話ではなかったのかと



老人を問い詰めると、老人は、「伝説とは、それを信じる事によってはじめて伝説となるのだ。」というような意味のことを言う。結局、二人は伝説通り、ため息橋の下でキスをしてハッピーエンドなのだが、夕焼けをバックに映る運河の回りの景色が実に美しい。自然の河川に比べれば、運河は水質的には劣るだろうが、ベニスという舞台の中でひきたって見える。そこには、人間が作り出した河川空間の一つの典型があるような気がする。私は、このニュースを発刊するにあたり、美しい伝説を作り出せる、そしてそれを人が信じたいと思えるような河川環境を追求したいと思う。静岡の河川を「帰らざる河」(THE RIVER OF NO RETURN) にしたくないから。(4)

『静岡県の河川を考える会』だより

静岡県河川課主催の『静岡県の河川を考える会』が発足し、昨年11月25日第1回委員会が開催された。

県では、今後3箇年をかけて『河川空間高度利用調査』を実施し、広く学識経験者 民間知識人の方々の意見をうかがい、『静岡型』の河川空間利用計画の策定・整備・管理・愛護の進めかたを検討していく。

第1回委員会では委員の方々から『川に思うこと』と題して、豊富な観点からの意見が述べられ、河川と人間とのかかわりが多岐にわたることが示唆された。

本年は、県内代表数河川で調査を実施し具体的な検討にはいる一方、『考える会』を中心に、県内市町村の事例発表・意見交換会、アンケート調査を実施するほか、市町村と協力してイベントを開催するなど県民の意向の把握・意識の高揚などを図っていく。(資料提供:静岡県河川課)

<委員>

志田直正
江崎千萬人
鈴木 保
小島睦雄
山梨清松
伊藤光造

静岡女子大学教授 社会学
江崎書店社長
鈴木保経営情報室
静岡大学助教授 林政学
(株)総合設計事務所 所長
(株)地域まちづくり研究所 所長
(敬称略)

<事務局代表>

丹原光隆

静岡県土木部河川課長

(担当:企画係 山田技師 TEL0542-21-3036)



『川に思うこと』 志田直正先生 (『第1回静岡県の河川を考える会』の記録より)

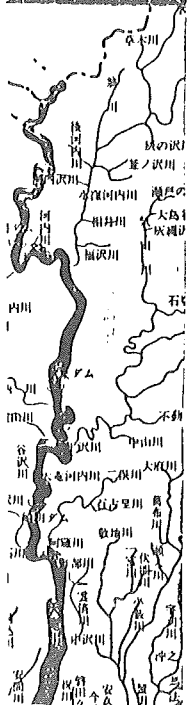
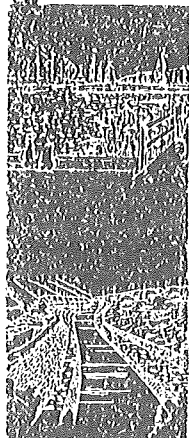
最近では『地域づくり』の名のもとに『個性豊かな地域社会の再建』があちこちで論じられ、また実践されてきています。しかしその多くが『地域社会』のうち『社会』の面だけを強調し『地域』の面がなおざりにされているように思えてなりません。というのは人間関係や生活様式などを通じて住民の連帯感の再建を行うのが地域づくりであるとうけとめられて、『地域』は単にある『範囲やひろがり』だけの意味でしか考えられていないからです。具体的には、スポーツ、祭り、レクリエーションなどの行事をはじめ、文化 伝統のほりおこしなどの活動が行なわれています。これそのものは もちろん地域づくりとして けっして的外れしている訳ではありませんが、これらだけを進めて行くと 画一的な 没个性的な地域社会になってしまうのではないのでしょうか。もっと『地域』そのものをほりおこし、活用していくことが地域づくりには必要です。

『地域』の一番の特徴は自然環境ではないかと思います。自然環境は豊かな個性をもち、それを相手に取り組み中から 地域社会に本当にねざした個性が生まれてきます。これからは自然環境にめを向けた個性豊かな地域社会づくりが求められます。そして その中で最も地域を個性化する特徴豊かな自然環境の一つは、『川』だと思っています。

また最近では、青少年の問題行動に対して『地域ぐるみの健全育成』ということがさかんに叫ばれています。その場合、それぞれの地域社会で行われている活動の多くは、挨拶運動や 他人の子供を叱る運動とか スポーツ 祭り 行事 など人間関係や 生活様式に目を向けたものであって、それはいわゆる『社会』による健全育成であるということが出来ます。そしてここでも『地域』は単に町内や学区といった活動の『範域』としての意味しかもたされていないので、それはただ 近隣で子供を遊ばせる 見守る程度の意味にすぎないといえます。これでは『地域ぐるみの健全育成』とはいいがたいと思います。

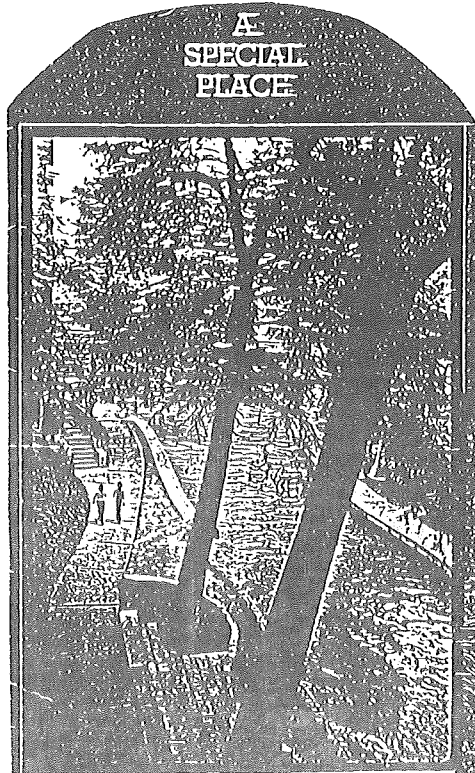
子供達の健やかな成長には『地域』が豊かな自然環境を備えた 活動の場であることが不可欠なのです。自然環境にふれるなかで感動を覚え 創意・工夫を学びまた 情緒・情操を培い さらに生活に必要な 行動様式を身につけていくことが出来ます。そして『川』はかけがいのない自然環境の代表です。

私はこれからの地域社会に いか自然環境を見だし、再生していくかという面から『川』を見ていきたいと思っています。(5)



サンアントニオ川の

パセオ・デル・リオ Paseo del Rio = River walk

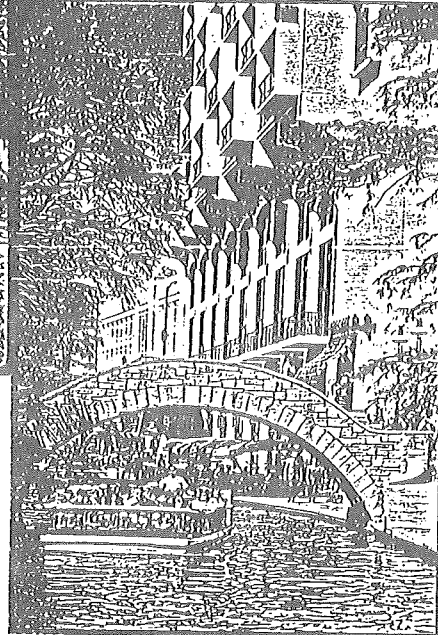


サンアントニオ市：テキサス州 セントノ西約300km
人口約80万 金米屈指のメキシコシティ
パセオデルリオ：主要部はサンアントニオ川の旧河川屈曲
部 延長約1km 中20m水路中10m 周囲市街地より3m程
低く、遊歩道沿いにカフェ、レストラン、ホテル、会議場を築く。

水面にカフェの灯が揺ぎ夫婦連れの観光客が川辺をゆる
がう。ボートのエではアリソンを奏でデイナーを楽しむ。Steam light night

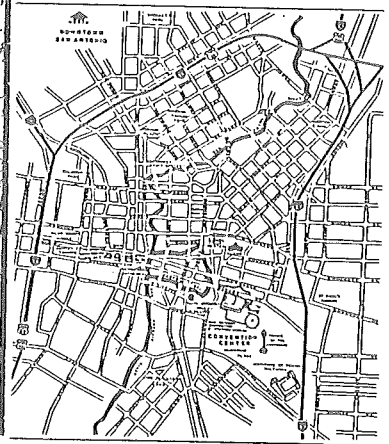
小生は一人、マルガリータを……。

サンアントニオ市の「市景観計画」(パブリック)諮問委員会による小冊子
「A SPECIAL PLACE」をご紹介する。



← Hilton Palacio del Rio
川沿いのヒルトンホテル

San Antonio River Map



Environmental Preservation

When European explorers made their way to South Texas in 1691, they discovered a settlement of peaceful Indians living beside a clear stream fed by artesian springs. Impressed by the lush vegetation and the good, cool water, the explorers camped by the springs. Father Massanet, a priest who accompanied them, celebrated Mass by the river and named it for Saint Anthony of Padua.

Much of the history of the city, the region, and the State of Texas is identified with this little stream. From the acequias (a Spanish term for the irrigation canals built by the founding missionaries) to today's modern skyscrapers, many important buildings were built beside this river. These include the famous mission now known as the Alamo as well as a number of impressive structures such as the Missions San Jose, Concepcion, Espada, San Juan; the Spanish Governor's Palace; the old Ursuline Academy, and many more buildings from the eighteenth and nineteenth centuries.



the ALAMO
アラモの砦

【和訳】環境の保全

1691年、ヨーロッパの探検家達は、テキサス南部に達し、泉から流れ下る美しい川沿いの友好的インディアンの村を発見した。植物の豊かさと、清涼なる水に魅せられ、彼らは泉の近くにキャンプを張った。一行のマサネット司祭が、岸辺でミサを行い、聖アンソニー(イタリアのパドヴァの人)にちなんで、この地をサンアントニオと命名した。

市、地域、テキサス州の歴史は、この小さな流れと共に歩んで来た。アセグアス(スペイン語で水路：宣教師により作られた)の時代から、モダンな高層ビルが林立する現代まで、数多くの貴重な建物が川沿いに建築された。アラモの砦として知られる有名な何尊教会をはじめ、サンホセ、コレポン、エスピダ、サンジュアンなどの教会、スペイン政府公館、古いアースリン学院など、美しい建造物や18世紀から19世紀にかけての多くの建築物がある。』

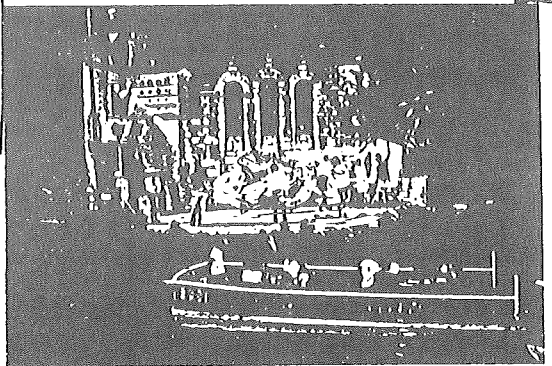
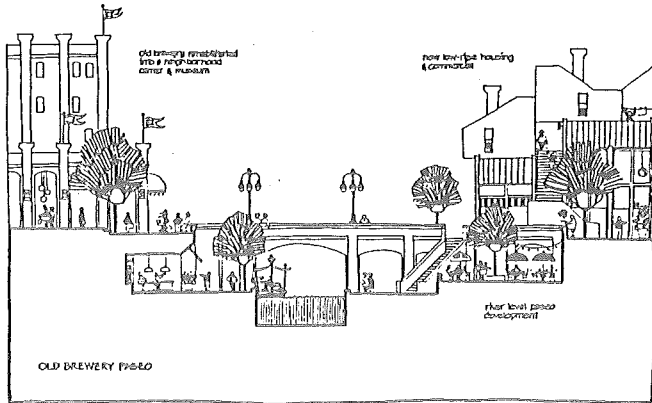
Early in the twentieth century, the little river fell into disfavor because of disastrous flooding in 1913 and 1921. The city government made plans to convert the river into a storm sewer system by straightening the river and diverting its water through a concrete tunnel. Some citizens felt that the lovely little stream was too valuable an asset to lose, so they began a movement to save the river. From these efforts came the founding of the San Antonio Conservation Society. The river was saved, and organized environmental preservation efforts became a part of the life of the community.

Today the city of San Antonio has a unique heritage of buildings that have been preserved. Many of them have found a new use and purpose. The beautiful King William section of the city, on the river just south of downtown, is undergoing a renaissance. The San Antonio Museum Association is converting an old riverside brewery complex into an art museum. The citizens of San Antonio have demonstrated that environmental preservation can be an asset to a city. Preservation efforts have both private and public support. In fact, the City of San Antonio has a full-time Historic Preservation Officer who helps to insure that the environmental heritage of the city will be considered and protected.

(知訳つづき)

20世紀の前半、川の評判は悪くなった。それは、1913年と1921年に大きな洪水被害におもわれたためである。市は川をまっすぐにしたり、トンネルにより分流する洪水防御システムにより、川を改修する計画を立てた。市民はこの美しく貴重な川を失はう事は出来ないと感じ、川を守る運動に取り組みはじめた。これらの努力によりサンアントニオ保護協会が設立された。川は守られ、組織的な環境保全の活動は、地域社会に日常生活の一部として定着した。

今日、サンアントニオは、保存された建築物という貴重な遺産を手にしている。それは新しい使い道と目的を見出しています。ダウントウン南川沿いの美しいキングウィリアムズ地区では、復興が図られている。(ドイツ系住民が居住したヨーロッパ調の住宅地(訳注) サンアントニオ博物館協会が川沿いの古いビル醸造所を美術館に改造している。環境の保全が市にとって財産となることを、サンアントニオ市民が実証したのです。保護活動は市民と公共の支持を得ている。サンアントニオ役所には、歴史保護職があり、環境的遺産が守られ、より良く配慮される事を保障している(次へ)



他の資料によれば、川のリフトアップにより残った馬蹄型の古い川については、二つの対立した意見があった。一つは排水のため必要分の下水路を残し、その上部を埋め立てて道路に変えようというもので、ドイツ系の住民がこれを支持した。もう一つは、川沿いに歩道を作り、古くからの町のたたずまいを残そうというもので、メキシコ系の住民がこれを支持した。この付近をラビリータ地区といい、古くからメキシコ・スペイン系の住民が多く、彼らは河沿いにレストランを建て、積極的に川を利用するよう努めた。このレストランが洪水被害を受けた時には、市民が募金により再建したとのこと。又、1938年には住民の発意により川沿いに特別区を設け、自らの土地に課税し、川の整備が行なわれた。これら住民の努力が後に行政を動かして行く事となった。

River Facts The San Antonio River is: • small in scale • a flood-prone area	Events Along The San Antonio River 1791-1891
Urban Design 	Flood Control
Pedestrian System 	Citizen Participation
Environmental Preservation When European explorers made their way to South Texas in 1691, they discovered a settlement of peaceful Indians living beside a clear stream	

小生、生まれてこのかた、こんなにたくさん英文知訳をしたのは初めて。先きにあってられるとドキッとします。最後までがんばって心配しながら、一生に一度と思っ、スタートしました。
 拙訳 乱筆 共に御免!
 (山田)

川の生態学

川のエコロジー

丹原 光隆 (河川課)

今年は寅年生れ42才の男の厄年である。寅年生れの知人のために、暮れから画廊を廻って「厄除け」の掛軸のつもりで「猛虎」図を求めた。しかし、これだけでは物足りない感じが否めなかった。なぜならば、「竜」がいないので迫力に乏しい。

正月の朝、夢の中で、彼のところにある「鯉」図が滝昇りをして竜になった。おめでたい夢に喜んで起きたが、よくよく考えてみると、彼のカミサンは辰年生れであり、落語的オチがつく結果となった。(昭和55年春の著作より)

初夢はこれくらいにして、コイの遊泳力はどのくらいあるのだろう。テレビで実験をしていたが2m/sの流速であれば、ピクリとも出来ない。これに対して、アユなどはおよそ倍の流速まで頑張っていた。これは、体型のちがいにによるもので、流れる水で生活する魚体の断面は、ほぼ円形に近く静水型のフナやコイは扁平である。

また、アユのジャンプ力も70センチの堰までは可能という説もあり、「アユのタキノボリ」というべきであろうか。

30名程度の若い土木技術者に、河川計画についての話をしたとき、「河川の機能とはどのようなものが考えられますか。」という質問をしてみた。洪水の排除・船運・排水・かんがい用水・いかだ・水力発電など治水利水の流水機能は、スラスラとでてきたが、第3の機能といわれる「人と水とが触れあう性質」すなわち、レクリエーション・公園・エコロジー・第一オープンスペースや景観など自然的社会的な機能については、ほとんど発言がなかったのである。

河川管理者たる家主は、借家人すなわち川に棲む動物たちに、「雨のとき水はけは十分ですか。」「住みごこちはどうですか。」「壁に孔はあいていませんか。」「食物はありますか。」など聞いてまわってはどうかだろうか。

1. 川の棲分け分布

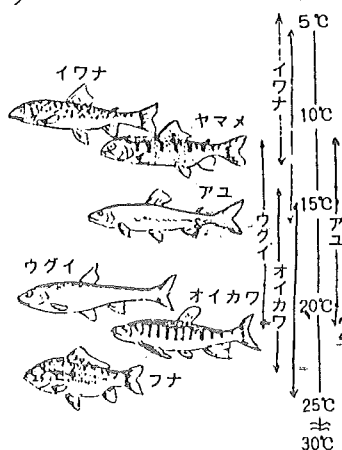
日本の川は、通常の場合上流から下流に向って、魚がほとんど同一の型の棲み分けをしている。すなわち、上流から下流への順序は、イワナ→ヤマメ(アマゴ)→ハヤ→カジカ→アユ→ウグイ→コイ→フナと続く。

山地急流では、川底に大小の岩や石塊があり、急勾配で、水温10℃以下の冷たさでイワナやヤマメが棲む。

中間急流では、河床には玉石や礫が多く、流速も大きく、砂利が堆積しやすい。アユ・オイカワ・ウグイなどが棲む。

平地流は勾配のない平地の間を流れ、川幅も深さも増し、河底には砂や泥が堆積する。都市や村落も発達しており、汚水の流入もある区間である。コイやフナが棲む区域である。

河口というのは、海との接点であり、一方向の流れと定期的に変動する潮の干満などによって、複雑な堆積などが生ずる区間であり、ボラ・スズキなども棲む。



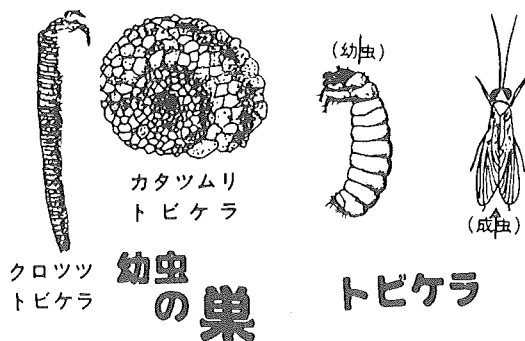
図一 水温による棲み分け

2. 川の健康診断はトビケラで

川が本当に活力ある環境かどうかは、そこに棲む生物たちにアンケート調査をすればよい。アユやコイに代表してもらいた

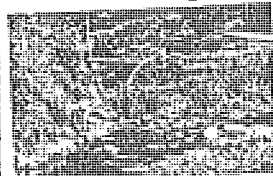
いのだが、彼等は移動性があり広域的であるため、地方により種類や性質が異なるためうまくいかない。

したがって、ベントス(底生生物)を対象とする。この中からできるだけ狭環境性種、すなわちある環境にしか棲息できない生物をえらび出すことにする。しかも、日本の砂利の多い河川でも三面張のコンクリート水路でも生息が可能な水生昆虫のトビケラが好適となる。

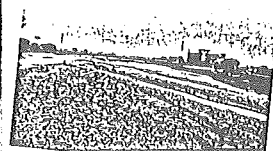


生物で知る川のようす

指標生物



注連草
山梨県山梨市から山梨県南西部にかけて、注連草は河原にはほとんどありません。大きな石や堀がゴロゴロしていて、ところどころで水は濁のようになっています。



中流地
山梨県南西部から山梨県南西部にかけて、注連草は河原にはほとんどありません。大きな石や堀がゴロゴロしていて、ところどころで水は濁のようになっています。



市出地を流れる川
住宅地や商業地からの生活排水を流しています。この川は汚れた水を流す役目があるので、よく流れるように人の手が加えられて水質のようになっています。

私たちの藤枝市には、市の中央部を流れる瀬戸川をはじめとして、北東部に朝比奈川、南部に大井川と大きな川が流れています。そして平野部の住宅地、商業地、水田地帯には、六間川や黒石川、小石川などの小さな川がたくさんあります。

これらの川にはどんな生物が住んでいるか知っていますか？

さあ、いっしょに生物の観察をしてみましょう



●藤枝市

『絶え間のない川の流水の中に
生きる生物たち。水中で生活する
彼らは、水の状態を、その生き方で敏
感にうつし出す。川が生きているかどう
か、楽しんでるか、苦しんでいるか、それ
を水中の生物たちは、そのまま自分自
身の生死苦楽として表す。私たちは川
に生きる彼らのようすを通して、川のそ
時の状態を知ることができる。』
(森下郁子著『川の健康診断』より)



毎月1回水質調査を行って来た14地点、
を中心に、23地点について、指標生物
調査を行い、その結果や調査方法を
わかりやすくまとめたのがこのパンフレットです。

6月9日には子供連40人が瀬戸川と
滝沢川で同じ方法で調査をした。

11月には消費生活協議会の方
が生活展でパンフレットの内容を発表
展示しました。

今年も6月ごろに市内の小学5、6年
生を対象に指標生物調査を計画し
ています。

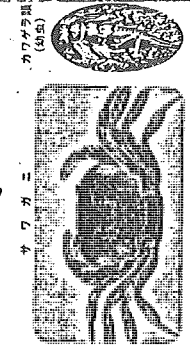


このページは藤枝市のパンフ
レットを中心に作りました。
パンフレットは希望の者にまだ配布
出来るそうです。

又、調査用の網は10センチあり
一般に貸し出しています。
どうぞあります。
(お問い合わせは)こちら



(9)



発行●藤枝市生活環境課 ☎0546-43-3111
〒426 藤枝市岡出山1丁目11番1号
調査・編集●環境アセスメントセンター
〒422 静岡市清水町13番12号

(かめを考へる会より)
様々な活動や情報をご紹介し、これをキッカケ
として、知り合いになり、輪を広げて行きたいと考えています。
お号なので私が市の方にうかがって作りかけたが、これは、
あなたにこのページを作ってもらいたいと思います。B5の
用紙の周りに1cmの余白を取って自由に作って下さい。ただ
名前とどに書いて下さい。(作成:小田)連絡先は最後のページ
のように入力して下さい。

イベント

情報

- ・1月29日「ふるさと清水を考える」…清水市
- ・1月28～29日「利根川シンポジウム」…伊東市
- ・2月8～9日
「桶ヶ谷沼の野鳥とトンボを語る会」…磐田市
- ・2月9日
「明日の生活環境を考えるシンポジウム」…掛川市

第1回 トイレシンポジウム

1月28～29日

所：伊東市観光会館別館

タイトル：『社会とトイレを考える』

『公共トイレを中心に』…サブタイトル

主催：日本トイレ協会 共催：伊東市

記念講演『トイレと生活文化』

(西岡秀雄 慶大名誉教授)

・要事前連絡・有料・宿泊あり

事務局：地域交流センター(03)580-8284
伊東市観光課(0557)36-0111

「桶ヶ谷沼の野鳥とトンボを語る会」

前夜会『スッポン料理で自然と開発を語る』

所：磐田中町付「大孫」2月8日午後18:00～

(第1部)『桶ヶ谷沼を見る会』参加費3000円

2月9日 AM 9:30 国1沿いホテル「まるい」前集合

トン汁代300円

(第2部)2月9日13:00～16:30 所：向笠公民館(TEL 8-0216)

基調講演：東大航空工学 東教授(トンボに詳しく)

スライド：北川先生、大場先生、合唱、?

(第3部)ひつまづ『フービーライク語る会』参加費1700円

連絡先 磐田青年会議所(米沢さん)(05383)7-1616

<編集後記>私達は、『すみよいまちづくり』『誇り高い郷土』『地域の活性化』『豊かな自然とのふれあい』etc・etc・に役立つことが、市民の一人として、私達にも何か出来ないか、ということと昨年7月ごろから集まりはじめ、今やっと名前を付けたばかりのたった10人のグループです。『静岡地方環境文化研究会』としました。たった10人ですがそれでも一人一人の興味・関心が異なっています。第1号の分代会として『しずおかかわをを考える会』を作り、ニュースを出そうと考えたのは、川が環境や文化に広くかわわりを持っているらしいことを知ったからです。興味のあるかた、是非いっしょにやりましょう。情報を持っていたかたは教えてください。できれば自分で1ページ作ってみませんか。みんなで作っていただければと思います。<編集>早津和之 〒420 静岡市東鷹匠町6の8塩沢アパート3号<連絡先>山田勝清TEL(昼間)(0542)-21-3036 (10)

『ふるさと清水を考える』まちづくり講座

発表会のお知らせ

今年の6月より12月までの半年間、約20名の清水市民が中心となって『ふるさと清水を考える』まちづくり講座を行い、その成果を多くのの人に見てもらうための発表会を行うことになりました。

内容は、2つの研究グループがあり、ひとつは、市内の街並み景観を徹底取材して、清水の再発見を行うとともに将来像を問題提起したスライドの上映と、ひとつは、古くから市民と関わりのある巴川を、現地調査をまじえて文化・歴史・動植物・景観等の面から巴川を考える『巴川の将来像』の発表です。

市民の方で、内容の濃いまとめが出来上がったと思っております。発表会は、参加自由ですので、興味のある方の参加をお願い致します。

発表会開催の日時・場所

日時：1月29日(水) 午前9時30分～11時30分

場所：清水市役所8階大会議室

※ 質問・問い合わせ等については、清水市都市計画課(安藤)まで 0543(54)2260

「明日の生活環境を考えるシンポジウム」

2月9日 13時 所 掛川市生涯学習センター

タイトル『快適な生活環境づくりと婦人の役割』

主催：県中遠振興センター 共催 掛川市

後援：地域婦人団体連絡会ほか

連絡先⇒掛川市 TEL(05372)

※：生涯学習センター4-7777



お申し込み

みなさんへ

シンボルマーク

大募集

この会は、川についての情報とみなさんにお伝えします。

そこで、この会にふさわしく?

ユーモアに富んだマークを募集!!

<応募資格> 無制限

<応募用紙> 規定なし

<賞金> 2,000円分図書券(1名)

<送り先> 〒420 静岡市東鷹匠町6の8

塩沢アパート3号 早津 和之

福井交通研究会報

(73年11月～79年9月)

79年9月

福井交通研究会

目

次

1. FTの経過と今後の方向	1
2. FTの歴史	2
3. 研究成果	7
4. FT会員のプロフィール	13

1. 福井交通研究会の経過と今後の発展

本多義明

1973年に5名の会員で発足した福井交通研究会は福井市を中心とする地域に適した方法論、計画論を研究するのが目的であった。その後6年を経過した現在では「地域の時代」といわれるようになったが、当時交通計画理論の主流は大都市を対象としたものであったため、地域に適した交通研究の必要性を痛感したのである。各種交通計画の手法、パークアンドライド導入の調査、積雪防災を考慮した地区計画手法、北陸新幹線の影響などが研究会で討論した主なものであるが、それ以外にも数々の課題について研究し、特に夏期には合宿活動により集中した研究活動が可能となった。このようにして、地域主導の交通計画を月ごとにいくという目的は一応の成果をあげたわけであるが、新しい「地域の時代」に対処すべくさらに総合的な都市研究の必要性が生じてきた。そこで会員一同の意志で、本研究会を発展的に解消して新たに交通以外の分野も含んだ福井都市環境研究会(仮称)を設立することとする。

回	月 日 (出席人員)	主 題 要 要	記 事
1	731102 (5)	設立会合を行い、各自のテーマを決める 松本 大都市交通体系の問題点 本多 地方都市交通役割論 加藤 自転車・歩行者交通体系 浅井 地方都市周辺交通体系 笠川 地方都市大量交通体系	幹事 本多氏に決定
2	731204 (5)	笠川・加藤 「全国街路交通情勢調査 46」 「駅前地域駐車場整備計画 48」 「福井市中心地域整備構想 72」 本多 「都市流入部調査」 「一方通行規制の効果」 「地区内街路の安全性」	
3	740111 (5)	本多 「地方都市の交通体系」 松本 「梅田地区交通計画」 浅井 「名白屋広小路ペDESTリアン・モール計画」 本多・松本 「自動車OD調査の問題点」	
4	740201 (5)	加藤 「自転車道整備のための都市計画策定要綱」 松本 「京阪神パーソントリップフロー」 浅井 「中京都市群 “ ”」 全員 「交通計画の種類の検討」	新耳会 交通計画関連分析シリーズ始まる
5	740322 (5)	本多 「MT計画」「通勤・通学交通」 浅井 「交通抑制」「交通環境」「新交通システム」	
6	740416 (5)	全員 各分担のフローチャートを検討し、相互関連を議論	
7	740523 (6)	全員 交通計画関連表の検討 本多 「福井市通勤・通学交通調査」	平野節雄氏(三和測量)入会
8	740620 (7)	浅井 「岐阜モレール計画」 松本 「市街地流動調査報告書」 加藤 「アンケート大分類項目」 笠川 「転機に関する属性」 本多 「ゾーン別データの充実」	川上雅一氏(高火力学院)入会 幹事に川上氏を選出
9	740717 (7)	浅井 「新三浦計画」 早野 「学内交通体系」 川上 「駐車場計画」	
10	740829 (7)	本多 「福井県総合交通体系調査報告書」 浅井 「調査項目の整理」	
11	740919 (7)	笠川 「福井都市群将来交通量推計調査報告書」 松本 「レクリエーション都市整備計画調査」 本多 「数量化理論」	「数量化理論」講座始まる
12	741024	村松 「オーストラリア旅行記」 笠川・加藤 「OD調査アンケート表」 本多 「数量化理論」	村松俊明氏(E&S)入会

回	月 日 (出席人員)	概 要	記 事
13	741205 (8)	浅井 本多 松本 全員 「新三浦計画」 「危険度と混雑度による事故分析」 「駐車場政策」 「数量化理論演習」	
14	741226 (7)	松本 平野 全員 「ゾーン・バス」 「区画整理」 「数量化理論Ⅱ類」	
15	750130 (7)	本多 笠川 「守口市に関する研究」 「福井市都市総合交通規制」	
16	750227 (7)	全員 川上 「P&R 調査集計報告」 「守口市都市構造調査」	P&Rの作業開始。
17	750327 (7)	村松 松本 「中京都市群 P&Rに関する調査研究」 「梅田地区交通施設計画」	中村元則氏(三和測量)入会。
18	750417 (7)	松本 川上 笠川 「くずは P&R計画」 「P&R 海外雑誌の報告」 「P&R 他県の現状」	春のコンパ。(ひさだ)
19	750522 (7)	松本 中村 平野 川上 加藤 笠川 「都市の変ぼう過程における自動車交通の発生に関する研究」 「指標リスト」 「コーディネーター要領」 「補助調査」	
20	750626 (7)	川上 笠川 中村 平野 本多 「ハニブルグの P&R計画」 「交通機関選択に関する研究」 「指標」 「クロス表」	月会費制(¥1,000)となる。 浅井氏賛助会員となる。
21	750717	松本 中村 平野 「大阪 P&R 計画」 「指標リスト」	
22	750809 ↓ 750811 (7)	夏季合宿(賢島ロッジ) 本多 P&R 単純集計。 村松・浅井 2重クロス集計。 松本(川上) 3重 “ 中村・平野 指標。 全員 文献紹介。	
23	750925	発表 村松 中村 平野 全員 文献要約 クロス表 指標整理状況報告 ODゾーンの整理統合作業	
24	751023	村松 平野 加藤 全員 整理統合ゾーンに関する2・3重クロス分析 詳細なゾーン指標 49年自動車OD報告 章建て(目次)の設定作業。	
25	751204 (7)	忘 年 会 全員 各自分担に基く、目次内容の発表。	寿々屋にて

回	月日 (出席人員)	概 要	記 事
26	760122 (7)	全員 章建ての修正内容の発表	
27	760226	全員 一次原稿の発表	
28	760416 ~17	全員 I・V章の最終原稿提出、図表のナンバリング、字句の修正、編集委員の選出	P&R 完成合宿(山代荘にて) 笠川氏賛助会員となる 佐々木氏入会、幹事に任命する
29	760526	編集委員 P&Rの編集報告 全員 新しいテーマの探索 ①新交通システム ②交通過疎 ③都市防災 ④都市物流 etc.	新シリーズ(第2期)に入る
30	760624	中村・加藤 物流・新交通システムの文献発表 全員 このからの研究の方向のまとめ ①物流班 ②COMMUTER班 ③防災班 ④特別 雪班	
31	760807 ~09 (11)	夏季合宿 (越前海岸 千石旅館) 中村・佐々木 「防災グループ」発表 松本・川上 「物流グループ」発表 村松・加藤・平野 「通勤グループ」発表	吉田氏(設計事務所)入会
32	760930	全員 地区計画調査マニュアル作成について検討 (文献・問題点・調査法・まとめ)	
33	761028	佐々木 防災グループ文献発表 加藤 地区連結グループ文献発表 物流グループ発表なし	
34	761125	休 会	
35	761209	忘 年 会	寿々屋にて
36	770120 (5)	加藤 「防雪都市建設計画調査報告書」 懇談会	
37	770217 (5)	大雪のため 休 会	
38	770317	平野 「積雪に関する情報」 松本 「物流のシステム論」 全員 グループ再編と今後の方針	青島氏(福太郎)入会 川村氏(三和測量)入会 川上氏賛助会員となる
39	770526 (8)	川村 卒論「災害時の避難経路の確立に関する研究」 中村 「災害計画の検討 その1」	
40	770623 (8)	本多 福井県作成アンケート票の批評 「日常生活圏における歩行者空間改善に関する調査研究」 松本 都市交通のうち物流問題について 全員 土地区画整理事業計画の地区計画的検討	

回	月日 (出席人員)	概 要	記 事
41.	770714 (10)	松本 全員 「歩行者空間計画について」 混合地区を対象とした計画調査マニュアル作成の検討。	
42.	770820 ～21 (10)	夏季合宿 (小浜市 志積海岸 いもん) 全員 「地区計画のための調査マニュアル」一次原稿。 中村・川村・平の…防災 } 編集委員長(吉田)。 本多・村松・松本…物流 他本・加藤・青島…積雪	
43.	770929 (6)	全員 「地区計画マニュアル」最終原稿提出。 青島 PT分析グループ研究計画発表。 加藤 PT計画 “ ”	42期研究完了し、43期研究に入る。
44.	771027 (5)	加藤 文献紹介「Interrelation Matrix for T.P.」 青島 各都市圏別PT報文収集報告	吉田氏賛助会員となる。
45.	771124 (7)	青島 P.T.の調査・分析の現状報告。 加藤 「都市計画発表論文」紹介。 本多 三全総の検討	
46.	771222 (8)	忘 年 会	お 菊
47.	780126 (6)	平野・青島 P.T.調査 都市圏比較。 佐々木・加藤 計画課総連関図。 本多 中部圏構想。	児玉氏(県計画課)ワザバー参加。
48.	780223	PT分析班 福井市における問題とは何か。 PT計画班 計画課総全体のFLOW。 大加江外班 地域的検討・交通通信体系・定住構想。	
49.	780427 (8)	大プロジェクトの終了に伴い、班構成及びテーマの再編を行う。 平野・青島 一駐車・マストラ班。 本多・松本・佐々木・冬期交通班 中村・加藤・村松・歩行者・自転車班。	佐々木氏RSAに就職。 幹事には平野氏が就任。 近藤氏(県監理課)入会。 全泰玉氏(釜山東亜大学)客員。
50.	780524 (7)	駐車・マストラ班 マストラ及び駐車場計画策定のための現状分析。 冬期交通班 文献紹介。 自転車歩行者班 文献紹介及び計画フロー。	
51.	780622 (7)	駐車・マストラ班 福井都市圏の交通計画と文献紹介。 冬期交通班 冬期交通計画立案の流山図。 自転車歩行者班 順化春山地区歩行者専用道路調査の手法。	
52.	780729 ～31 (12)	夏季合宿 (鷹巣海水浴場・石森亭) 全員 各計画班から、計画フローの発表・討論。 原稿の提出指示。	43期終了。
53.	781026 (7)	全員 新幹線を多角的に検討するための分担の決定。 環境基準(青島) 都市機能(加藤) 地域交通体系(本多) 乗降客推移(村松) 新駅立地論(平野) 工法のコスト比較 (近藤) 駅東地区計画(中村)	44期「新幹線を考える」シリーズがスタート
54.	781130 (7)	加藤 新幹線駅都市の構造比較。 本多 新幹線と総合交通体系。 平野 勝山市新保地区調査報告。	

回	月日 (出席人員)	概 要	記 事
55	781221	忘 年 会	茶 太
56	780125		
57	790426 (5)	近 藤、 新幹線の工法コスト比較・技術比較。 本 多、 交通過集中地域の交通比較。 中 村、 能登川駅前土地区画整理事業調査。	
58	790524 (8)	村 松、 「福井県総合交通体系計画調査」による新幹線乗降 客数推計。 青 島、 騒音・振動環境基準。	長谷川氏(大日本コンサル) 入会。
59	790627	全員、 会の改組について 話し合い。	
60	790905 ()	解 散 報 告 会	癸会館。

3. 研究成果

ア 1期 研究	P&R方式導入の可能性に関する研究 → 福井都市圏ケーススタディー	73年1月～76年4月
ア 2期 “	地区計画のための調査計画研究	76年5月～77年9月
ア 3期 “	総合交通体系立案のための手法研究	77年10月～78年7月
ア 4期 “	新幹線の現状と課題	78年10月～79年9月

- 研究の目的
- 研究の進め方
- 研究報告書の構成及び概要

1) P&R方式導入の可能性に関する研究

○ 研究の目的

P&R方式の導入は、大都市において、2. 環境保全の立場を重視しているのに
対して、福井市のような地帯都市では、郊外居住者の利便性向上を図る交通手
段として必要と位置づけが大きい。このような認識の上で、アンケート調査(予備調
査)を行なうことにより、地帯都市福井におけるP&R方式導入の可能性
を検査する。

○ 研究の進め方

この調査研究は都市構造の現況、P&R調査(アンケート調査)、分析等作業
量が多く時間を要したが、またアンケート調査表の配布・回収は、全
国道路街路交通情勢調査の配布・回収システムを利用したためスムー
ズに完了した。作業は各セクションごとに分担した。

① 報告書の構成と採録要

目次	概要
はじめに	
1章 概説	
1-1 交通体系の変遷	→ 道路網, 鉄道網, 鉄道旅客数, 道路交通量の変遷
1-2 調査の経緯	→ ソーニンフ
2章 P&Rに関する調査・研究計画例	
2-1 国内の例	→ 大都市の文献紹介
2-2 海外の例	→ アメリカ(シカゴ, ワシントン), 英国等
3章 都市構造の現況	
3-1 都市構造指標	→ 基礎指標(面積, 人口), アクセシビリティ指標(バス停数, バス停経路等)
3-2 指標の計算方式	→ 例えばバスサービス指数
3-3 考察	→ 地理・施設現況等よく周知しているため, 予定値より結果得られる。
4章 P&R調査	
4-1 調査の概要	→ 調査内容, 抽出方法, 調査対象等
4-2 集計結果	→ 単集計, 二重集計, 三重集計
4-3 まとめ	→ 将来希望交通手段, 公共交通への転換傾向等
5章 分析	
5-1 数量化理論之類による判別分析	→ 数量化による判別(アンケート)
5-2 重回帰分析によるP&R需要予測	→ 重回帰による予測(都市構造指標)
5-3 まとめ	→ 説明変数, 回帰式の検定。

2) 地区計画のための調査計画研究

(地区計画調査マニュアル)

① 研究の目的

全般的に都市レベルでの交通計画研究が本研究会において行われてきた。このような中で、地区を計画単位とする交通計画が研究テーマになった。とりわけ、積雪地方都市における地区計画を進めることになり、積雪、地方の物流、防災と計画手法が充分に確立体系化されていないテーマを選んだ。このため、研究書は計画事例、文献等の現状把握を特に重視しているのが特徴となっている。

② 研究の進め方

研究テーマである積雪、物流、防災の3つに分かれチームを作った。研究の進行プログラム(工程)の中で、各チームがそれぞれ自主学習、資料収集、検討会等を行い、定例である月1回のFTゼミ(本研究会開催ゼミ)で中間発表を行い、互いに討議、肉付け等をして研究報告書を作成した。

* {	積雪チーム		佐々木	+	青島	+	加藤
	物流		平野	+	中村	+	川村
	防災		本多	+	松本	+	村松

③ 報告書の構成及び概要

各チームとも①文献リスト、②調査マニュアル、③計画マニュアルのセクションから構成されている。

・ 積雪

①文献は幅広く調べているものの、数々なく、スリップ、凍結等と扱う物理現象、除雪費用、効果等の交通経済面でのリストがある。

②調査マニュアル化では、積雪の影響調査(トリップ特性、意識、除雪、除雪装置、交通施策)をしている。

③計画マニュアルでは、除雪、隔雪、搬出のシステムを荷路モデルに提示している。

○ 物流

①文献は海外の文献をとりまぜ、物流の発生、集荷モデル等幅広く紹介している。

②調査マニュアル^化では、物流トロッポ(トロッポ特性、品目等)、地区の特性(土地利用、交通施設等)、住民の意識(必要度等)の3点から展開している。

③計画マニュアル化では、物流のパターンモデルを提示している。

○ 防災

①文献は避難施設、建築物対策等幅広く集大成されている。

②調査マニュアル化では、焼え、消し、逃げ、住民の4つの要素で構成している。

③計画マニュアル化では、防災およのモデルを表わしている。

3) 総合交通体系立ち上げのための、手法研究

⑨ 研究の目的

オ2期の調査研究は、地圧を対象に進めてきたが、オ3期においては、都市レベルに広げ、積雪による都市機能への影響を考慮する中から、新しい手法、計画体系を検討する。このため、以下に示している、駐車・マストラ計画、歩行者自転車計画は、ある程度、手法、計画システムが確立されているが、積雪のフアクがどのように作用関連するかが本研究のテーマでもある。

⑩ 研究の進め方

研究の進め方は、オ2期と同じで、総合化する点において異なっている。

* { 駐車・マストラ班、――――青島、その、川村。
冬期交通班、――――本郷、村松、松本。
歩行者自転車班、――――佐々木、中村、カト

⑪ 報告書の構成上の概要

● 駐車・マストラ

リパーソン・トリップ調査都市、交通予測モデルの紹介、(3)調査・計画フロー

● 冬期交通

1. 冬期交通の特性把握、積雪による調査・計画フロー

● 歩行者自転車

1. 歩行者、自転車の特性、調査・計画フロー

2. 駐車・マストラ + 冬期交通 + 歩行者自転車の調査・計画フロー

4. 新幹線の現状と課題

② 目的

北陸新幹線問題にかんがみ、新幹線のもつ交通の役割、公害、経済メリット等
新幹線もつ根本問題を把握認識する中から、駅的位置、工法及びコスト等を検討
するものである。

③ 進め方

各テーマ1人で進め方はヤ2期、ア3期と同じ。

7つのテーマの中に、設計部内④⑦を加えているのが特徴である。

① 環境基準 ----- 青島

② 都市機能(副都心の可否) ----- 加藤

③ 地域交通体系 ----- 本村

④ 集降客推計 ----- 村松

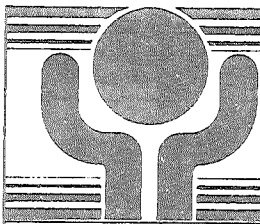
⑤ 新駅立地海 ----- 平野

⑥ 工法のコスト比較 ----- 近藤

⑦ 併設の場合の駅東地区計画(福井市) ----- 中村

[illegible]

		在 会 期 間									
		S 48	49	50	51	52	53	54			
氏 名	勤 務 先	生 年 月 日									
① 本多 義明	福井大学(助教)	S 17.							創設メンバーの1人。理論的に強力なバックアップとなり、会のサークルメンバー的存在。初代幹事。		
② 松本 隆二	R&A								創設メンバーの1人。懇情を理論精鋭で、会の発展に寄与。		
③ 浅井 佳彦	E&S								創設メンバーの1人。運営者実任活動も、地理的制約のため、賛助会員となる。		
④ 並川 徹	福井県道建設課	S 20. 7. 22							創設メンバーの1人。県道建設から研究に關与し、49ODZPRR欧米の原動力となる。		
⑤ 加藤 哲男	福井県河川課	S 25. 7. 18							創設メンバーの1人。FTにおける、学習、研究が果て、学会発表するまでに関与。FTの申し子。		
⑥ 平野 節雄	三和測量								福井へ帰省する15年(FI)に、学会活動、4年代幹事。		
⑦ 川上 雅一	豊田工専								福井大学院生の時入会。42代幹事。4月の7で、詳細な果樹、特に応用交配交渉の報告。		
⑧ 村松 俊明	コ江ニエー企画								E&S、コ江ニエー企画と活動の人生において、着実にFTに参画。石巻の人から福井の人へ倒れつゝある。		
⑨ 中村 元則	三和測量								F大建設OBの一人。初代幹事の中心で、PR、地図計画でも結果は欧米をあげ、石巻に水の原長。		
⑩ 佐々木 実	R&A								F大大学院の2年間は、43代幹事の責任を果たし、白華の平田の中に、非には果樹を数多く致した。		
⑪ 吉田	建築設計事務所								何となくFTに参加し、何となくあつていつか、建築との接点に因縁を残した。		
⑫ 青島 繁太郎	福井大学(助手)								F大助手として、やれを隠す入る。しかし、懇情には指導と討論は、会に貴重存在である。		
⑬ 川村	三和測量								F大建設OB。転任後、東京へ配転されたが、石巻には必ず参加。合宿男の偉名をとる。		
⑭ 近藤 幸次	福井県監理課	S 25. 11. 5							F大では、福祉工員のZemiにも参加し、多方面にわたる豊富な活動力。その時から懇情をたまはし。		
⑮ 長谷川	大日本コンクリート								福井大学コンクリートの専攻。コンクリートとして、石巻に浸け込み、夜の街では、石巻に名が通っている。		
研 究 経 過		第1期 P & R 計画							第2期、アンケート	第3期 PT関連	第4期 新幹線



地域づくりを考える

シンポジウム (安永)

■目的

山梨県にも、中央道全線開通による影響が、観光面においても徐々に表れる。

しかし、今まで公共団体・企業も、このことを意識しながらも無為無策だったのではなからうか。

我々が知る一部の人は、中央道のメリットを考えて、そのためにアイデアを求めて、意図的に試策した。

それらは、今は成功している。

しかし、観光が一部、一拠点でなく、総合的、魅力のかたまり、がその対象だとするとそれらは失敗する可能性がある。

観光こそ地域づくり、地域のトータルイメージとまでいかなくとも、少なくとも、ある程度エリアとして捉えられるかたまりの魅力だとしても、それらは人工的に形成されるものであると考えられる。

そこで、地域の人々と、直接的に、具体的にケーススタディをもとに、討議し、研究し、地域づくりについて考える。

(1) 観光地とは ああウチの町のことか！

・しかし、何か不足しているな

・一寸待て、今ウチに在るものは

・あれだ！ あれを使わぬ手はない

(2) まず どうしよう！ アイデアは？

・ウチ、何か絵を描いて

・あっ！ いろいろのはどこかに？

・そつだ あそこが先がけが

(3) あそこに行ったら ウチと参考になった

・しかし、あそこはウチとは

ウチに、あんな金はない

ウチに、あんなやりてがない

ウチに、あんな組織がない

ウチに、……

ウチに、……

今まで、Y.R.P.がつき合った市町村の人々にも、こういう人が割と多かった。

だから、提言が提言として終わったのだ。

■手段

Y・R・P・も11年目を迎えている。そして、その信条提言することは、今でも変わらない。

しかし、一寸停滯気味というのは、我々の方向性が希薄になりかかったことだ。

その打破とすれば、やはり武田信玄公だ。

『撃つて出る』ことに尽きる。

そのために、Y・R・P・全員がすることは、

・地道にケースを集める、ことは勿論

・集めたデータを 的確に

必要な時機に

必要とする我々が判断する人に

必要な量を

与えることである。

これこそ、Y・R・P・の真髓で、独立独歩の精神である。

そこで、シンポジウムについて述べる。

・対象者は、地域づくりに熱中している人

・地域づくりに深く係る人

・地域づくりに痛く興味のある人

・リーダーは、無給でも駆けつける人

・本場の地域づくりの指導者

■開催日

昭和58年11月3日 (木) 前夜祭も考える。

■準備

Y・R・P・全員は次のことをする。

◇まず

ケーススタディを5ヶ所以上行つ。

地区 ・ 甲府市 山の辺の路

” 川の辺の路

・ (石和町・春日井町) 川くだり、フルーツフェスティバル

・ (都留市・富士吉田市) 織物の街並み

・ 三富村 ダム周辺利用

・ 下部町 木喰の里

・ 全地域 沿道、河岸の修景

※これらについては、最小限行つものとする。

◇つぎに

・県内で、地域づくりに興味を持っている人のリストの作成を行う。

※特に熱心な人は推薦によりY・R・P・に入会あるいはシンポジウム実行委員会に依頼する。

・県外で、地域づくりに実践している人

・団体のリストを作成する。

※これらの人々には、以後Y・R・P・ニュースを送付する。

・準備の分担については、4月に行う。

・県外に良好な事例がある時は、花岡、橋田まで。

※再認識の確認

・Y・R・P・の信条は

・自の知恵を出し合い

・これを整理し集約し、体系化して持ち

・ある必要性に応じて

・具体的に表現し

・ある知恵を提言すること

・そのために、日常での見識を磨くため、

・普通の人と一寸変わった視点で

・普通の人と一寸多めの量で

・普通の人と一寸苦痛の行動で

生活せねばならない。

それが、後々、余生までの案となるのだ。

[地域計画] — 現象の奥に潜む原理 —

その2. 白根町の桃源郷マラソン

白根町の桃源郷マラソンは、桃の花が盛りの4月の第2日曜日に開催される。昭和52年から始めて、今年は第6回目の開催であった。第1回の参加者は623名で、今回の参加者は5913名であった。これから参加者は、左近津々端々から家族や仲間の同伴者と共にやってくる。ある団体は日帰りのバスを仕立ててやってくるし、ある人々は白りがけでやってくる。白りがけの人々は、白根町内に民泊するのである。民泊を始めたのは、第4回の昭和55年からで、今年はその回目であった。民泊としての受入れ農家戸数は約40戸、宿泊者数は約200名であった。

「桃源郷マラソン」——桃の花咲く下を走る——健康第一——ここは競技の場であるが、また競技の場ではない。思い思い自分のペースで走れる。走るさがある、ふれあいの場がある、夢がある！

民泊を始めた。民泊は宿泊業ではない。その日だけ農家は、参加者に宿を開放してもてなす。商売ではないから、農家の真心が伝わりやすく客に浸透する。ここにも明るさがある。ふれあいの場が生ずる。種類つき合いが始まる。桃の定期的な注文発送が生じる。

日帰りのバスツアーの参加者には、完走後の団体にワインを、土産物を、……、でふれあいの場が生ずる。

結局、桃源郷マラソンの事業目的は、《健康増進》であり、「マラソン」も「民泊」も「土産販売」も皆、目的ではなく手段を装っていること。手段の名目は、所期の目標を達成してこればそれ以上越したことはないが、それが例外、うまくゆかなかったとしても困ることはない、という余裕。

これが、全体として白根町の魅力につながって、白根町を好印象の町にしている。その結果、町としては少しでも多くの農産物が売れてくれればよいのである。これが、地域としての白根町の本音の《目的》である。

「桃源郷マラソン」は白根町を売り込むための宣伝活動なのであり、これは1つの祭りなのである。そして、この宣伝そのものが《観光産業》を作り出しているという「情報化社会」の妙と、観光が《観光産業》であることを具体的に示している各例だと思う。

もう1つは、誰が考えたか知らないが、この企画に町のトップが乗っていた信頼感(=バカさかげん)とズク、そしてこの企画に町民が乗っていたという信頼感(=バカさかげん)とズク、この2つの余裕が地域関係を成功させることの秘訣である。

具体的に観光産業を成立させるものは、授産費としての宿泊料金、土産販売料、交通料、その他種々のサービス料であるけれども、観光産業とは、これらが商売の目的ではなくて、《夢》を売ることに目的があるのである。そこに「はじめたらしき」があったら観光産業は、失敗である。

—— 花岡先生

YRP活動の活性化を願って

このところ、YRP活動が停滞していること、会員の大部分が若年者で、活動が少なくなった。会費を払ってでも参加者が少なく、会としての意志決定もできないという場合もしばしばあることは、うすうす皆さんが承知していることでもある。振り返って見ると、この問題は過去において何回となく出ては消えた本会にとって最大の悩みであり、固執に達し、恐らく今後とも繰り返る、いわば永遠の課題でもある。

そこで、今回は関係者の総面会を催して、私なりに感じたことを申し上げ、あるいは、提案をして会員諸元の協力をお願いしたいと思うのである。

まず、活動が停滞し、定例会への参加者が少ないという原因を調べて見ると

1. 各自の仕事が忙しすぎるため参加できない。
2. 当日他の会合と重なって参加できない。
3. 面白くないから行かない。(いわゆる「サボリ」)

その他にもいろいろ不参加の理由はあるが、この3点に大別できる。そこで、解決策であるが、一応考えられることを列挙してみると、会員の年齢が上るに従って

、仕事が増えるようになるのは当然であり、責任も伴って来るということになれば、日程の自由確保が難しくなる。定例会等の日程は早め決定、連絡すること、都合を必ず連絡するようお願いしたい。現在通常の連絡は、キャッチボール方式の花岡流が採用されているので、厳格に行なうてもらいたい。次に、仕事にかこつけた言い分や型やサボリ型であるが、これは参加しない本人の姿勢の問題に起因するもので、やはり積極的に参加すること、自ら解決していくような考え方を持つてもらうしかない。それには、興味あるテーマの設定とその解決策の検討が必要である。それから、リーダーシップである。固定した指導体制がマンネリズムを生む可能性を考慮されるので、今後一度は新体制へ向けて検討されてもよいテーマであると思う。また、遠距離運動の会員への配慮も必要であろう。定例会を地域毎の持ち回りで行うことも考えられる。

最後に、本会の原則は、自由の意志に基づく自由の会である。その中に共通の話題を見つけて行動して、連帯を築き、自らを高めていくというところである。この認識に立って、我々の立場をもう一度考え直していただきたい。YRPには、脱退もなければ、卒業(〇日)もないはずであるから——

—— 三井副会長

地方都市研究 談話会への出席

昨年、山梨大学で行われた「地方都市研究発表会」の時、YRP会員がお世話した、地方自治者・議会の連絡会議(YRPニュース第一号記事参照)が、いよいよ「地方都市研究会」として10月12日に開催されることになり、YRPからも数人出席することになった。てま、

勉強会開催について

10月(10月)より、月一程度の予定で勉強会を行います。

日時 10月25日 16時30分

場所 山梨大学 花岡研究室

テーマ 公共施設の利用と配置

なお、レポートには、曾根・直野・寺田委員の3名にお願いしてあります。

また、レポートのコピーが道口会員により用意されていますので連絡を。

に

。研修旅行は10月末に筑波へ、YRPニュースの第2号でも連絡しました。研修旅行の日程が決まりました。

日時 10月28日(金)3日(土)3日(日)

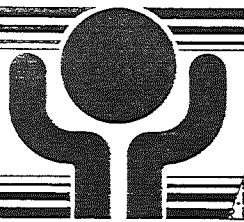
場所 筑波大学都市と人間の芸術村

旅費では、講師に太田泰氏を招き、筑波大学都市の町づくりについて講話をうかがい、空間では、芸術村の文化に接したいと思っております。

会費諸君の御参加を。

。アミーゴにYRPの伝言板

マスター(高安氏)の御好意により、アミーゴに、YRP専用の情報伝言板を作ったいただきました。会費諸君は、もしもここに掲示しますと、会費諸君の連絡にも利用して下さい。



広瀬湖の可能性を探る！

ダム調査について

現在の研究課題であります。三富村の観光開発計画の策定作業を進めておりますが、この開発計画を策定するなかで、まず、広瀬湖の観光利用と三富村の観光における位置づけを検討することになりました。そのため、広瀬湖の可能性を探る手がかりとして、他県の類似する観光地を対象に、調査を実施しました。この調査について、担当であります栗沢さんから報告をいただきました。

調査としては、アンケート調査と現地調査を実施しました。

アンケート調査は、15のダムについて、その位置する市町村に調査表を送付し、10通の回答をいただきました。記入例は添付したものの、こちらの恩恵とりの回答でないものもありましたが、懇切丁寧に、いろいろな資料を添付し返送して下さいましたものもありました。

また、現地調査は、4月中旬に北関東方面、5月中旬に近畿方面に、それぞれ2泊3日で調査に出かけました。

北関東方面は、矢崎、松田、奥野委員の他運輸手1名で、埼玉県の下久保ダム、群馬県の相模ダムと藤原ダムを調査し、それぞれの役場も訪問し、担当職員と会い、現状や将来計画などを伺いました。

また、近畿方面は、橋田会長、栗沢、滝口委員で、京都府の高山ダム三重県の青蓮寺ダム、奈良県の孝風呂ダムなどを調査しました。北関東方面は、季節的に早すぎたのか、残雪もみられ閑散としていたようですが、近畿方面は観光シーズンに入り、かなりの人出がみられたようです。(ダム以外の観光地の人出は、特に多かったようです。)

調査の詳細は報告書を御覧になつていただくこととして、調査の日程は、予定どおり出発し、予定どおり無事帰宅したようではあります。交通制限、混雑、宿泊場所の変更等なかなか予定どおりにはいきませんでした。今回の調査は両方面とも、なぜか神社仏閣や商売が印象に残った調査でした。なお、今後の報告書の作成には、会員諸兄の絶大なる御協力をお願いいたします。

第2回 自然に親しみ 自然に学ぶ 小学生作文キャンプ

今年もY.R.P.の活動の目玉であります「自然に親しみ自然に学ぶ作文キャンプ」が開催されます。今年も第2回目であり、昨年同様甲府市黒平小学校において8月6～8日(金～日)まで開かれます。昨年のキャンプは7/31～8/2の3日間、1年生から6年生までの9名の子供が参加し、星の観察・自然観察・山小屋づくり・キャンプファイヤーなどを楽しみ、その最終日に体験を作文に綴り、参加者の前で発表するというユニークなものでした。今年は、昨年以上に内容のあるキャンプにできるように、いろいろ計画しています。例えば、今年「飯ごう」を用意し、小学生が中心になり、自分達のご飯を自分達で準備するというようなことも計画しています。また、今年は「若穂拾いの会」も協力していただけるとのことです。今年は、もっと多くの小学生が参加するように、会員皆さんの前宣伝を、また会員も昨年以上の参加が得られるよう御協力を願います。

ストック時代の観光計画について(その1) ——甲府市の観光基本計画の策定から——

ストックと言えは、在庫という言葉が最適である。従来、観光計画に、地元の緻密な現状を前提にした地域の観光計画はなかった。これは、観光計画と言うものが、地域の総合振興計画であると考えられていたことによる。点・線・面という捉え方をすれば、点と線までのが考えられていたことによる。しかし、ストックの時代というのは、これに「歴史」という時間的加わった観念である。あまりにも物質的な観念化した計画に対しての対象地域における自己抵抗とも受け止めてもよい。より具体的に言うと、戦後の急激な産業成長を前提として、

第一に、国も地方自治体も同一手法による総合振興計画、開発計画を策定したこと。

第二に、地方都市の都市計画が同一手法により行われたこと。

第三に、交通利便性、開発容易性に着目した施設計画が行われたこと。時として意味が不明確な各種「線引き」に順じたこと、などが挙げられる。だから、総合振興計画を見れば、役場間や山も離れていない町村でも役場近くに、必ず病院や各種行政センターが設置されている。水準とか基準とかの画一性にとらわれすぎた嫌いがあるのだ。この指摘の中で完全に欠如していたのは、

「歴史」ということである。水準や基準は必要なことでもあるし、個々的には「歴史」ということを基調にした行政もあったことは否定しないが、長い時間がかかって形成された地域を、そこに住む人々の生活の基礎観念として考えたことがあったのだろうか。従来の物質的な乾燥的である計画論に、徐々に変化がでてきたのは当然でもある。やはり計画の中に「潤い」がない「心」がない。実行して行く人にも寂しさと「不安感」が残る。「ああこのままでいいのだろうか」とか「このまま進んだら、この町はどうなるのだろうか」とか。

地域に対する計画論が変化の兆を見せ始めたのは、まだ事新しいことである。まだ6～7年前である。手元にある財団法人「地方自治協会」地方都市の個性と魅力——望ましい定住環境を求めて——は、昭和52年8月から53年12月の研究成果をまとめ、54年2月に報告書を行っている。この報告書は時代認識として、地域計画において発想の転換が必要となったことを明確にしている。

新会員紹介

矢崎政人 会員

北海道大学工学部土木工学科を53年に卒業。現
在、都留文科大学道後道後道後道後道後道後道後
留地区の道路に関する仕事を担当しています。
学生時代には、身体障害者に対する交通問題を
研究するがため、人形劇に足を踏み入れ、県庁
就職後も同好の士を募り、人形劇団「たまたま」を
主宰しています。
一見、おとなしそうに見えなが、心強い好青年
です。
(理事会員)

他已紹介

橘田友春 会長

県庁で、「橘田友春」とはどんな人物と聞くと、バスの中でジャパン
タイムズを読む人、勉強家でキレ者、やり手、理屈屋、一見年寄り
等、様々な答えが返ってくる。
どこも彼の一面を捉えているもので、私は、独創的な企画力と指導
力を備えた迫力のある人と評価し、ここからの行政やYRP等に
なくてはならない人物と思っています。

中会会員

『地域計画』

—現象の奥に潜む原理—

その1. 龍山村を訪ねて

姉妹研究グループ「若者農担いの会」が主催したシンポジウム「森と日本人—新しい森林文
化の創造を考える—」(3月20日)に備えるために、静岡県磐田郡龍山村の森林組合を訪問し
た。組合長の青山宏さんをパネラーにお願いしてあったからである。この森林組合は地域の
育林から森林生産・加工、住宅販売にいたるまで垂直的な組織化に成功し、見事、過疎村を再
生したことで有名である。

森林組合の今日を築いたのは、青山さんを中心とする人々であったが、なにしろ昭和36年
当時森林組合職員5人からスタートし、現在従業員210人をかかえる活気ある組合に成長させ
、龍山村の過疎を喰止める原動力になっている。龍山村は面積70.73km²、人口2,200人の山
村であり、その92%が森林で占められている。森林面積の27%は国有林、公有林であり残り73
%が私有林である。私有林の75%は1~5haの零細林家で占められており、同時に私有林の60
%は他町村の所有者で占められている。

このような劣悪の条件のもとで彼等が過去20年間に行ってきたことは、組合と組合員の結
合を計るために組合が各組合員の経営の代替機能を持つこととして、作業班組織を作って不安
定な林業労働を通年就業に導いたことに始まる。労働条件の向上・改善のために「各人の賃金
問題」から手をつけたこと。地域の雇用機会の増大のために「人口流出を防ぐ堰堤」として、
ムツミ製材協同組合設立、編物工場の設立、土木班の編成、花木栽培、内職機会の創出、天龍
材住宅販売株式会社の設立、小径木加工工場の設立などを興して「若者の環流」に成功した。

以上を概観し、現地を訪問して思うことは、次の諸点である。

- 原理1. 40~60年という長期の林業生産を通じた太陽エネルギーの蓄積のサイクルを1日
24時間の人間の生活に必要なエネルギー消費のサイクルに、いかんして変換してゆくかの努
力であったこと。
- 原理2. 身近かで大切な緊急課題の処理から計画が実行に移されていること。必要なハー
ドな計画はその後から具体化していること。地域振興計画は連続であるということ。
- 原理3. 世の中の状況に即応して多角的な手を相互の因果律として捉え、次々に打ってい
ったこと。
- 原理4. 推進力、索引力をなす優秀で、住民に信頼され、エネルギー的なリーダーの存
在が必要なこと。
- 原理5. 住民にやる気を起こす仕掛け(システム)を苦勞して産み出していること。

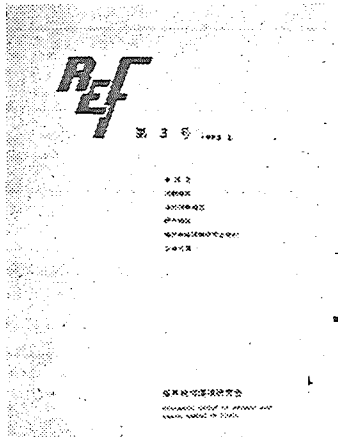
※ 今回より、「シリーズ」としてこの欄で、地域計画について、花岡先生に
書いていただくことになりましたので、御期待を!!

事務局 だより

予定表

7/2	あみーじ
9	あみーじ
14	キャンプ打合せ(塾)
16	あみーじ
23	あみーじ
30	あみーじ
8/6	YRPキャンプ
7/8	
陶	研修

図 アット開発
YRPの活動集しも、今までは大学を利
用させてもらっていましたが、今度、気軽
に集まる場所(たまり場)をということ
で、平和通り西側、丸の内2-16の「あみー
(tel.2-3360)」というお店を、たまり場に
したいと思っています。毎週金曜日を集合の日と
決め、金曜日に「あみーじ」へ顔を出せば、他
の会員に会えるというようにしていきたい
と思っています。また、「あみーじ」に、YRP
の伝言板を用意したり、活動関係資料、推
読なども置かせてもらえらるものとします
で……、毎週金曜日
図 YRP研修は筑波へ
今年のYRPの研修は、8月後半に、
茨城県の筑波研究学園都市の見学の予定。
図 YRPニュースの
タイトルデザイン決まる。
我がYRPニュースのタイトルデザイン
が決まりました。このデザインは、名古屋
の北川会員によるものであり、さっそく今
月号より、YRPニュースの顔として使わ
せてもらいました。



福井地域環境研究会の
研究報告書第三号

福井地域環境研究会（富田
伊太郎会長）はこの程、研究

福井地域 環境研究会 報告書第3号発行

水害意識調査も紹介

報告書第三号を発行、行政や教育機関に配布した。報告書には昨年一年間の活動状況や交通、水、住宅、緑、土地利用の五分科会の研究報告が掲載されている。

同研究会は、地方の時代といわれる今日、住みよいまちづくりを目指して本県の地域環境を調査、研究するため、五十五年九月に発足した。メンバーは福井大の教官や学生、土木事務所、民間の測

量、設計会社の技師ら四十五人。テーマを設定して分科会や研修会などを通じ活動している。毎年報告書を作成しているが、今年は約五百部作り、県内外の関係機関に配布した。

報告書第三号は、まず富田会長の「地域問題を考える」と題した巻頭言で始まり、昨年度の活動報告や各分科会の研究報告が掲載されている。交通分科会は「北陸本線が福

井市の都市構造に及ぼす影響」をテーマに報告。水分科会では福井市内の町内会長、区長を対象にした河川と水害に関する住民意識調査を基に研究内容をまとめた。調査によると、水害の危険意識を持っている人は四一・四％を占め、全国平均より二・五倍も

高いことが報告されている。

住宅分科会は「居住する人たちがつくる住宅とまち」をテーマに研究。緑分科会は「福井市街地における緑空間の段階的考察」について研究し、「旧市街地では全体的に緑の量が少なかったため街路樹への依存が大きく、限られた緑に対する管理が行き届いていない。これに対し新住宅地では敷地内に緑を求める傾向が強くなり、歩道空間も生活の場であるという意識が薄い」と指摘している。

土地利用分科会は「福井市街地を例にしたサービス遊歩空間論の試み」について発表。同市内を「文化的機能」「商業的機能」「飲食的機能」「社交的機能」「レジャー的機能」「性的享樂的機能」に分けて調査した。

福井地域環境研究会（REF）とは

REF = RESEARCH GROUP OF REGION AND ENVIRONMENT IN FUKUI

地域の問題は地域で解決するという目的のもとに、地域の哲学を確立するためには、技術的にも理論的にも水準の向上が必要であり、産・官・学一体となった計画学徒の集団づくりを行うものである。
(1979年11月6日設立の趣意書より)

活動内容

分科会活動 —— 自主的研究課題に関する調査研究活動

交通、水、住、緑、土地利用、地盤、地域事業の各分科会があります。

理論研究会 —— 地域環境研究のための基礎理論の学習

テキストを選び、輪読とフリーディスカッションを行っています。

談話会 —— 地域環境に関する諸問題の討議

県内外から講師を招き、地域環境に関する認識を深めています。

研修会 —— 地域環境に関する調査研究の実践活動

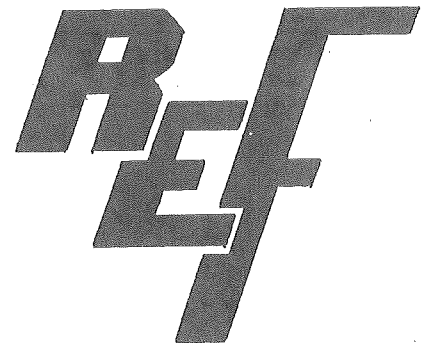
調査研究の実践活動として、国外、国内の視察、調査を行っています。

平成元年10月現在の会員数は98人（正会員68名、学生会員4名、会友26名）であり、正会員の内訳は大学教官等9名、官公庁職員等31名、コンサルタント等28名になっています。

地域環境に興味のある方の入会をお待ちしています。

事務所・連絡先：〒910 福井市中央3-1-5 三谷ビル 203号室
TEL (0776) 27-0078

REF結成10周年記念講演会



「地方都市の名誉と 未来のために」

日時 平成元年11月11日(土) 午後2時～午後7時

場所 福井市民福祉会館

第一部 講演 (6F 大ホール)

第二部 ほろよい討論会 (3F 301号室)

主催 ■ 福井地域環境研究会 (REF)

後援 ■ 福井新聞社・福井商工会議所・(財)地域環境研究所

PROGRAM

＜ 第 一 部 ＞ （会場：6F 大ホール）

13:30 受付、開場

14:00 開会の辞

主催者挨拶

14:10～15:25 講演

演題「地方都市文化の再興」

講師：野坂昭如氏

休憩

15:30～16:45 演題「地方都市整備への提案」

講師：依田和夫氏

休憩・移動

＜ 第 二 部 ＞ （会場：3F 301号室）

17:00～19:00 ほろよい討論会

講師：依田和夫氏 橋詰武宏氏

白井淳夫氏 伴藤真理子氏

佐々木哲夫氏

座長：本多義明氏

PROFILE

野坂昭如氏



1930年東京生まれ。作家。

1967年「火垂るの墓」、「アメリカひじき」により第58回直木賞受賞。作家としてだけでなく幅広い分野で活躍中。

依田和夫氏



1933年群馬県生まれ。現在、住宅・都市整備公団理事。

1957年、建設省入省。

1985年、大臣官房技術審議官を経て、1987年より現職。

橋詰武宏氏

1942年生まれ。現在、福井新聞政経部長。

白井淳夫氏

1945年生まれ。現在、ジャズバブ経営。

伴藤真理子氏

1947年生まれ。現在、アイビー学院総括部長。

佐々木哲夫氏

1952年生まれ。現在、今立町役場勤務。

本多義明氏

1942年生まれ。現在、福井大学工学部環境設計工学科助教授。



主 催／福井地域環境研究会（REF）
後 援／福井県・福井新聞社



市民と行政
そして
まちづくり
ーパートナーシップを考えるー

と き：平成6年10月22日(土) 13:00～

ところ：福井県職員会館 4F大ホール



これからの *まちづくり* の成功の鍵は、市民と行政とのパートナーシップにあると考えます。両者が協調することで自らのコミュニティがより良いものになるからです。現在全国各地でまちづくりを行なっている方々の話を聴いてまちづくりはどうあるべきかを考えましょう。



REF (福井地域環境研究会) は産・官・学合同の自主的研究グループとして昭和54年に結成されました。この会は、福井の地域環境に関わる諸問題について、調査研究を行なうことを目的としています。活動内容は、分科会活動、研修会および他の地域との交流等であり、現在会員数は約160名で、今年で15周年を迎えます。わたしたちは、今後の活動をさらに充実させたいと考えております。みなさんの参加をお待ちしております。

《Program》

13:00【開会】 福井地域環境研究会長

本多義明 (福井大学工学部教授)

13:10【事例発表 (県外編)】

『掛川市・まちづくりへの挑戦』

静岡県 掛川市 都市計画課 課長補佐 山本君治 氏

『越谷市のまちづくり』

埼玉県 越谷市 都市計画課 課長 落合茂樹 氏

『近江八幡市における伝統的な町並みの保存について

——ふるくて新しい町づくり—— 』

滋賀県 近江八幡市 教育委員会

文化財課 管理係長 木俣美好 氏

14:20【休憩】

14:30【事例発表 (県内編)】

『武生市中心市街地の再生について』

武生市 市街地再開発室 室長 石田建夫 氏

『“セントピアあわら”を核とした“ゆのまち”づくり』

芦原町 建設課 課長補佐 坪田清孝 氏

15:10【質疑・意見交換】

15:25【閉会】 福井地域環境研究会 幹事長

橋本栄治 (福井県 都市計画課)

15:30【懇親会】 ごゆっくりご歓談ください!





20周年記念講演

21世紀の地域づくりの視点

～市民参加型社会に向けて～



■と き／ 1999年11月20日(土) 14:00～

■ところ／ 福井県国際交流会館 3F 特別会議室

(場所は、裏面の地図をご覧ください。)

●第1部 講演会 14:00～16:40 定員150名 **入場無料**

- 講演1 「21世紀の地域づくりの視点」
大阪産業大学教授 今野 修平 氏
- 講演2 「まちづくりにおける市民参加とNPO」
早稲田大学教授 卯月 盛夫 氏

●第2部 ほろよい討論会 17:00～19:00 定員100名 **会費1,000円**
「福井の地域づくりにおける市民参加の可能性」

準備の都合上、講演会・ほろよい討論会に出席される方は、裏面申込書にてお申込み下さい。

主催／福井地域環境研究会 後援／福井県・福井市・福井新聞社・(財)地域環境研究所

問い合わせ先／福井大学地域・交通計画研究室(李教官室) 担当：寺内

TEL 0776-27-8763 E-mail ref@traffic.anc-d.fukui-u.ac.jp

REF 20周年を迎えて

福井地域環境研究会(REF)は、福井地域における地域環境にかかわる諸問題について、地域の特殊性をふまえた調査・研究を行い、技術的・理論的水準の向上をはかるとともに地域の発展に寄与することを目的としており、現在、産・官・学の会員約180名(平成11年7月現在)で構成されています。

本会は、昭和54年の結成以来、地域に根ざした研究活動을続けており、今年で20周年を迎えることとなりました。

そこで、今までの活動を振り返るとともに、きたるべき21世紀の地域づくりにおいてポイントとなる市民参加型社会についての講演・討論会を企画しましたので、皆さん一緒に考えてみましょう。

講演会の講師プロフィール

講師

このの しゅうへい
今野 修平 氏

1933年 宮城県生まれ
1956年 東北大学教育学部地理学科卒業
1974年 運輸省大臣官房政策計画官
国土庁計画調整局計画官
1980年 福井医科大学教授
1986年 大阪産業大学経済学部教授
1996年 交通文化賞(運輸大臣)受賞
1998年 大阪産業大学大学院教授兼務

他に、国土審議会計画部会委員/国土庁地方都市問題懇談会委員/経済審議会特別委員等を兼任している。

講師

うづき もりお
卯月 盛夫 氏

1953年 東京都生まれ
1978年 早稲田大学大学院修士課程修了
シウトウツツガルト大学都市計画研究所
1982年 世田谷都市デザイン室主任研究員
1992年 世田谷まちづくりセンター所長
1995年 早稲田大学教授

まちづくりへの主な関わりとして、用賀プロムナードいらかみちの計画設計/世田谷清掃工場のエントツ色彩デザインコンペの実施/世田谷まちづくりセンターおよび公益信託世田谷まちづくりファンドの運営などがある。

交通の御案内

JR福井駅より徒歩10分!



※マイカーでのご来場はご遠慮下さい。

ほろよい討論会

ほろよい討論会では、少しお酒を飲みながら、フリートークスタイルのディスカッションを行います。お気軽にご参加下さい。

討論者

- 松森 和人氏 市民活動ネットワークふくい会長
- 山田 陽一氏 (株)平成大野屋代表取締役社長
- 高木 紀榮氏 福井アーバンデザイン研究会会長
- 藤木 和人氏 南条熱中塾長
- 熊野 隆夫氏 福井新聞社大野支社長
- 児玉 忠氏 福井地域環境研究会副会長

コーディネーター

福井大学工学部建築建設工学科
川上洋司氏・野嶋慎二氏



REF20周年記念講演「21世紀の地域づくりの視点」FAX申込書

送信先/福井大学地域・交通計画研究室 0776-34-8581

お名前	お仕事(会社又は団体名)	連絡先(電話)	参加する会に○を付けて下さい
		TEL	講演会・ほろよい討論会
		TEL	講演会・ほろよい討論会
		TEL	講演会・ほろよい討論会
		TEL	講演会・ほろよい討論会

※ほろよい討論会の参加費1,000円は当日会場にて承ります。席に限りがありますのでお早めにお申込み下さい。

まちづくりどう参加

福井地域環境研究 20周年記念し討論会

福井のまちづくりのありきた。会員は現在、大学や行政関係者、民間の建築関係者ら約百八十人。

この日は「二十一世紀の地域づくりの視点―市民参加型社会に向けて」をテーマに新たな活動のあり方を探つと会員や一般市民ら約二百人が参加した。

会長の本多義明福井大教授のあいさつに続き、RE Fの活動にも参加してきた今野修平大阪産大教授が「パラダイムシフトの中の新しい地域づくり・まちづ

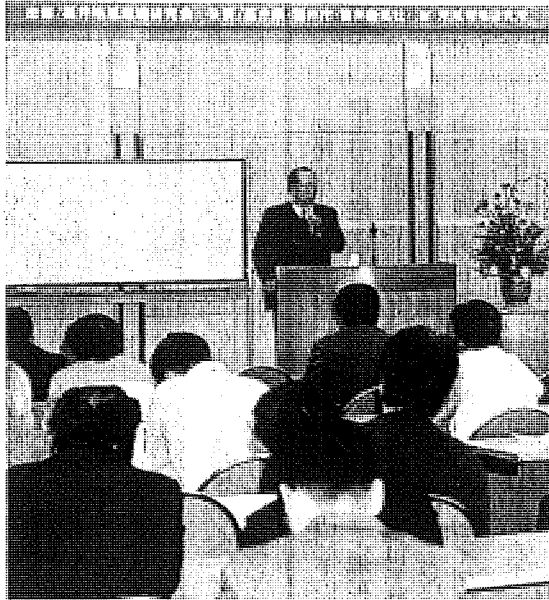
くりを求めて」と題して講演。「生産から交流へと枠組みが大きな転換点を迎えている」中で地域づくりに「交流、グローバルゼーション、文化、多民族の視点が不可欠。市民自らの変革が求められている」と訴えた。

続いて卯月盛夫早大教授が「まちづくりにおける市民参加とNPO」と題して講演。東京・世田谷まちづくりセンター所長の経験から具体的な活動や仕組みを

20周年記念講演

21世紀の地域づくりの視

～市民参加型社会に向けて～



福井地域環境研究会の設立20周年を記念して行われた講演・討論会

紹介。「まちづくりへの参加は個人レベルでは限界がある。NPOなどの団体を通じて市民参加が実現する」と強調した。この後「福井の地域づくりに関する市民参加の可能性をテーマに、県内の市民活動グループの代表らによるほろよい討論会が行われ、体験談などをもちに議論を深めた。

福井地域環境研が20周年

福井のまちづくりや都市と

交流会館で開く。

環境の在り方を研究してきた市民団体「福井地域環境研究会（REF）」（本多義明会長）が設立二十周年を迎えたのを記念、二十日に「二十一世紀の地域づくりの視点」をテーマにした講演・討論会（福井新聞社後援）を県国際

REF（レフ）は、一九七

九年の結成以来、技術的、理

論的水準の向上を図り地域の

発展に貢献しようと、福井の

地域環境にかかわる問題につ

いて地域の特殊性をふまえた

調査、研究を続けている。会

員は大学関係者、県や各市町

市民参加型社会 可能性を探ろう

村の技術者やコンサルタント業、建築関係の民間会社社員ら約百八十人。

これまでの活動を振り返るとともに、二十一世紀の地域づくりのポイントとなる市民参加型社会について一緒に考えようと企画した。

第一部は、今野修平大阪座

業大教授と卯月盛大早稲田大

教授を講師に迎えての講演

会。第二部の「ほろよい討論

会」では、少しお酒を飲みな

がら、市民活動ネットワーク

ふくいの松森和人会長ら六人

を討論者に招き、フリート

ク方式で討論。「福井の地域

づくりにおける市民参加型の

可能性」を考える。

第一部は午後二時から四時

四十分まで、入場無料で会員

以外の聴講も可。第二部は同

五時から七時まで、定員百人

で会費千円が必要。申し込み

問い合わせは福井大地域・交

通計画研究室☎0776

(27) 876311まで。

21世紀にらみ 20日討論会 講演も

福井地域環境研が20周年

福井のまちづくりや都市と環境の在り方を研究してきた

交流会館で開く。

市民団体「福井地域環境研究会（REF）」（本多義明会長）が設立二十周年を迎えたのを記念、二十日に「二十一世紀の地域づくりの視点」をテーマにした講演・討論会（福井新聞社後援）を県国際

交流会館で開く。REF（レフ）は、一九七

九年の結成以来、技術的、理

論的水準の向上を図り地域の

発展に貢献しようと、福井の

地域環境にかかわる問題につ

いて地域の特殊性をふまえた

調査、研究を続けている。会

員は大学関係者、県や各市町

市民参加型社会可能性を探ろう

村の技術者やコンサルタント業、建築関係の民間会社社員ら約百八十人。

これまでの活動を振り返る

とともに、二十一世紀の地域

づくりのポイントとなる市民

参加型社会について一緒に考

えようと企画した。

第一部は、今野修平大阪産

業大教授と卯月盛夫早稲田大

教授を講師に迎えての講演

会。第二部の「ほろよい討論

会」では、少しお酒を飲みな

がら、市民活動ネットワーク

ふくいの松森和人会長ら六人

を討論者に招き、フリートー

ク方式で討論。「福井の地域

づくりにおける市民参加型の

可能性」を考える。

第一部は午後二時から四時

四十分まで、入場無料で会員

以外の聴講も可。第二部は同

五時から七時まで、定員百人

で会費千円が必要。申し込み

問い合わせは福井大地域・交

通計画研究室Ⅱ ☎ 0776

(27) 8763Ⅱまで。

21世紀にらみ 20日討論会 講演も

< 討論者所属団体の活動内容紹介 >

市民活動ネットワークふくい

民間非営利セクターに関わる基盤的組織として、情報交流、政策提言などの幅広い活動を通じてNPOの強化を図り、企業や行政との新しいパートナーシップの確立を目指す、福井地域のNPOセンター。

平成大野屋

地元大野市の地場産良品と情報を全国に向けて販売・発信することにより、人や物の流れを活発にし、地元の産業・商業・農業が今以上に繁栄することを目的とした第三セクターの会社。具体的な事業として「物販事業」「レストラン事業」「受託・製作事業」などを行っている。

福井アーバンデザイン研究会

まちづくりについて考え、行動するNPOであり、自分たちの住む街について、どうしたいのか、自分たちの出来ることはどんなことがあるのか？福井の街を良くしたいと思う有志が集まり、約7年前に発足。以来、まちづくりに対して、一人一人が学ぶと共に、多くの人々に興味を持ってもらうため、マスタープランの作成やポスターの掲示などの啓蒙活動を行ってきた。主な活動として「上文殊地区将来ビジョン」策定のためのイベントワークショップの開催等、他多数。

南条熱中塾

南条町の問題・課題を打破するため、青年団OBが母体となって、H5.2に結成。「潤いと活力のある南条」=「心の豊かさを実感できる社会」=「夢のある暮らし」を目指して、熱中してみよう・・・と、南条をこよなく愛する会員11名で活動している。その内容は、「南条桜まつり」等のイベント、「はすうどんの開発」等の産業振興、さらに「まちづくりへの提言・学習会」など多方面にわたる。

REF (福井地域環境研究会 ; RESEARCH GROUP of REGION and ENVIRONMENT

in FUKUI) は産・官・学合同の自主研究グループとして昭和54年に結成されました。福井地域における地域環境にかかわる諸問題について、地域の特殊性をふまえた調査・研究を行い、技術的水準の向上を図るとともに地域の発展に寄与することを目的としています。活動内容は分科会活動、研修会および他の地域との交流等であり、現在会員数は約180名です。今年で20周年を迎え、今後の活動をさらに充実させたいと考えています。みなさんの参加をお待ちしております。

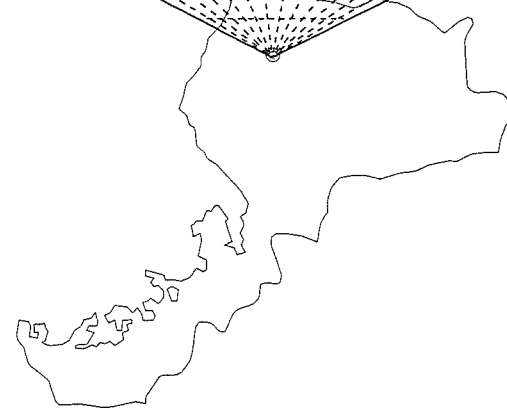
< 連絡先 > 福井地域環境研究会

〒910-0006 福井市中央3-1-5 三谷中央ビル

TEL (0776) 27-0078 FAX (0776) 27-7851

REF 20周年記念講演

21世紀の地域づくりの視点
～市民参加型社会に向けて～



と き／1999年11月20日(土) 14:00～
ところ／福井県国際交流会館 3F 特別会議室

主催／福井地域環境研究会 (REF)

後援／福井県・福井市・福井新聞社・(財)地域環境研究所

21世紀を迎えるに当たり、地域づくりの視点として、新しい時代の到来に合わせた地域づくりやまちづくりの方向を求める一方で、その実現のための方策のひとつとして、今回、特に市民参加を取り上げ、市民参加型社会としての福井県の実体と今後の可能性を明らかにしていこうと考えています。

21世紀のまちづくりの視点は、工業化時代のまちづくりや近代国家構築のための地域づくりから、グローバル社会の中の地域やまちの存在意義と役割を、明確に主張できるものにしなければならず、この実現のための区画整理や再開発を求めなければなりません。また、美しい空間の創造や自然との共生、さらに知的活動活性化の環境への新しい事業や、交流基盤の整備等の新しいプロジェクトの創出等、20世紀の視点とはかなりの転換があります。そしてその大きな枠組の転換の中で市民参加型社会がありその意味を明らかにしていくことが重要です。

きたるべき21世紀の地域づくりにおいてポイントとなる市民参加型社会について、みなさんも一緒に考えてみましょう。



<講演会の講師プロフィール>

講師 今野 修平 氏

1933年 宮城県生まれ
1956年 東北大学教育学部地理学科卒業
1974年 運輸省大臣官房政策計画官
〃 年 国土庁計画調整局計画官
1980年 福井医科大学教授
1986年 大阪産業大学経済学部教授
1996年 交通文化賞（運輸大臣）受賞
1998年 大阪産業大学大学院教授兼務

他に、国土審議会計画部会委員／国土庁地方都市問題懇談会委員／経済審議会特別委員等を兼任。主な著書に「沿道開発計画」（技報堂）「交通地理学」（大明堂）「地域と環境保全」（大明堂）「三全総の発想と構築」（創造書房）などがある。

講師 卯月 盛夫 氏

1953年 東京都生まれ
1978年 早稲田大学大学院修士課程修了
〃 年 シュトゥットガルト大学都市計画研究所
1982年 世田谷都市デザイン室主任研究員
1992年 世田谷まちづくりセンター所長
1995年 早稲田大学教授

まちづくりへの主な関わりとして、用賀プロムナードいらかみちの計画設計／世田谷清掃工場のエントツ色彩デザインコンペの実施／世田谷まちづくりセンターおよび公益信託世田谷まちづくりファンドの運営などがある。

プログラム

14:00 開会あいさつ
福井地域環境研究会会長 本多 義明

【第1部】

14:10 講演 1
『パラダイムシフトの中の新しい地域づくり・まちづくりを求めて』

大阪産業大学教授 今野 修平 氏

15:10 質疑・応答

15:20 休憩

15:30 講演 2
『まちづくりにおける市民参加とNPO』

早稲田大学教授 卯月 盛夫 氏

16:30 質疑・応答

16:40 休憩（・・・会場設営のため室外でお待ち下さい・・・）

【第2部】

17:00 ほろよい討論会
『福井の地域づくりにおける市民参加の可能性』

討論者

- ・松森 和人 氏（市民活動ネットワークふくい会長）
- ・山田 陽一 氏（平成大野屋代表取締役社長）
- ・高木 紀榮 氏（福井アーバンデザイン研究会会長）
- ・藤木 和人 氏（南条熱中塾代表）
- ・熊野 隆夫 氏（福井新聞社大野支社長）
- ・児玉 忠 氏（福井地域環境研究会副会長）

コーディネーター

川上 洋司 氏・野嶋 慎二 氏
（福井大学工学部建築建設工学科）

18:55 閉会あいさつ
福井地域環境研究会幹事長 稲葉 隆夫

